別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画										
事　項	記　入　欄									備　考
計画の区分	学部の学科の設置									
フリガナ 設置者	ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝ　ﾀｲｼｮｳﾀﾞｲｶﾞｸ 学校法人　大正大学									
フリガナ 大学の名称	ﾀｲｼｮｳﾀﾞｲｶﾞｸ 大正大学　(Taisho University)									
大学本部の位置	東京都豊島区西巣鴨三丁目20番１号									
大学の目的	教育基本法及び学校教育法に従い,仏教精神「智慧と慈悲の実践」により人間を総合的に理解し,人類の福祉に貢献する人材を養成すること									
新設学部等の目的	メディアの使命を俯瞰的に把握でき,情報の受け手を斟酌した表現物創造の重要性を理解し,実践することのできる人材を養成する									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	
	表現学部 [Faculty of Communication and Culture] メディア表現学科 [Department of Communication and Media]	年 4	人 155	年次人 －	人 620	学士（メディア表現） 【Bachelor of Communication and Media】	文学関係	年　月 第　年次 令和6年4月 第1年次	東京都豊島区西巣鴨3丁目20番１号	
	計		155	－	620					
同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	社会共生学部（廃止） 公共政策学科　(△130) 社会福祉学科　(△ 65) （3年次編入学定員）　(△ 2) ※令和6年4月学生募集停止 （3年次編入学定員は令和8年4月学生募集停止） 心理社会学部（廃止） 人間科学科　(△120) （3年次編入学定員）　(△ 2) 臨床心理学科　(△110) （3年次編入学定員）　(△ 2) ※令和6年4月学生募集停止 （3年次編入学定員は令和8年4月学生募集停止） 地域創生学部公共政策学科　(100)　(令和5年4月届出) 臨床心理学部臨床心理学科　(110)　(令和5年4月届出) 人間学部人間科学科　(120)　(令和5年4月届出) 人間学部社会福祉学科　(65)　(令和5年4月届出) 表現学部表現文化学科〔定員減〕　(△125)　(令和6年4月)									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数						卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計					
	表現学部 メディア表現学科	42科目	54科目	10科目	106科目			124単位		

学部等の名称	基幹教員					助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
	教授	准教授	講師	助教	計			
新設分 表現学部　メディア表現学科	4 人 (4)	1 人 (1)	3 人 (3)	0 人 (0)	8 人 (8)	0 人 (0)	160 人 (160)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	4 (4)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	8 (8)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　6人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	4 (4)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	8 (8)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	4 (4)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	8 (8)			
地域創生学部　公共政策学科	8 (8)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	128 (128)	令和5年4月届出済み
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	8 (8)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	10 (10)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　8人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	8 (8)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	10 (10)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	8 (8)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	10 (10)			
臨床心理学部　臨床心理学科	6 (6)	4 (4)	4 (4)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	121 (121)	令和5年4月届出済み
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	6 (6)	4 (4)	4 (4)	0 (0)	14 (14)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　8人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	6 (6)	4 (4)	4 (4)	0 (0)	14 (14)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	6 (6)	4 (4)	4 (4)	0 (0)	14 (14)			

	学部等の名称	基幹教員 教授	准教授	講師	助教	計	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
新設分	人間学部　人間科学科	8 (8)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	137 (137)	令和5年4月届出済み
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	8 (8)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	11 (11)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　8人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	8 (8)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	11 (11)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	8 (8)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	11 (11)			
	人間学部　社会福祉学科	7 (7)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	133 (133)	令和5年4月届出済み
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	7 (7)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	9 (9)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　6人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	7 (7)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	9 (9)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	7 (7)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	9 (9)			
	計	33 (33)	9 (9)	10 (10)	0 (0)	52 (52)	0 (0)	－ (－)	
既設分	地域創生学部　地域創生学科	7 (7)	6 (6)	3 (3)	1 (1)	17 (17)	0 (0)	129 (129)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	7 (7)	6 (6)	3 (3)	1 (1)	17 (17)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　8人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	7 (7)	6 (6)	3 (3)	1 (1)	17 (17)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	7 (7)	6 (6)	3 (3)	1 (1)	17 (17)			

学部等の名称	基幹教員 教授	准教授	講師	助教	計	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
既設分 表現学部　表現文化学科	5 (5)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	167 (167)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	5 (5)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	10 (10)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　5人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	5 (5)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	10 (10)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	5 (5)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	10 (10)			
文学部　日本文学科	4 (4)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	138 (138)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	4 (4)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	8 (8)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　5人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	4 (4)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	8 (8)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	4 (4)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	8 (8)			
文学部　人文学科	6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	130 (130)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　5人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)			
文学部　歴史学科	8 (8)	5 (5)	2 (2)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	140 (140)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	8 (8)	5 (5)	2 (2)	1 (1)	16 (16)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　6人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	8 (8)	5 (5)	2 (2)	1 (1)	16 (16)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	8 (8)	5 (5)	2 (2)	1 (1)	16 (16)			

学部等の名称	基幹教員 教授	准教授	講師	助教	計	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
既設分 仏教学部　仏教学科	9 (9)	6 (6)	5 (5)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	176 (176)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	9 (9)	6 (6)	5 (5)	0 (0)	0 (0)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　8人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）	9 (9)	6 (6)	5 (5)	0 (0)	20 (20)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	9 (9)	6 (6)	5 (5)	0 (0)	20 (20)			
総合学修支援機構DAC	0 (0)	1 (1)	4 (4)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	3 (3)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	0 (0)	1 (1)	4 (4)	0 (0)	5 (5)			
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）	0 (0)	1 (1)	4 (4)	0 (0)	5 (5)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	0 (0)	1 (1)	4 (4)	0 (0)	5 (5)			
教職支援センター	3 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	3 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (3)			
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）	3 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (3)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	3 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (3)			
エンロールメント・マネジメント研究所	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)			
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)			

学部等の名称	基幹教員					助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
	教授	准教授	講師	助教	計			
計	42 (42)	26 (26)	19 (19)	3 (3)	90 (90)	0 (0)	ー (ー)	
合　計	75 (75)	35 (35)	29 (29)	3 (3)	142 (142)	0 (0)	ー (ー)	

職　種	専　属	その他	計
事務職員	99 人 (99)	53 人 (53)	152 人 (152)
技術職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)
図書館職員	7 (7)	10 (10)	17 (17)
その他の職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)
指導補助者	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	106 (106)	63 (63)	169 (169)

校地等 区分	専　用	共　用	共用する他の学校等の専用	計	
校舎敷地	68,904.84㎡	0㎡	0㎡	68,904.84㎡	校舎敷地のうち、21,135.55㎡は(学)佛教教育学園から貸与 〔貸与期間〕H28.4から20年間
その他	5,035.94㎡	0㎡	0㎡	5,035.94㎡	
合　計	73,940.78㎡	0㎡	0㎡	73,940.78㎡	

校　舎	専　用	共　用	共用する他の学校等の専用	計	
	59,479.93㎡ (59,479.93㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	59,479.93㎡ (59,479.93㎡)	

教室・教員研究室	教　室		教員研究室		
	150室		8室		大学全体

図書・設備 新設学部等の名称	図書〔うち外国書〕 冊	電子図書〔うち外国書〕	学術雑誌〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点	
表現学部 メディア表現学科	7,646〔937〕 (7,301〔892〕)	7〔0〕 (7〔0〕)	153〔27〕 (153〔27〕)	9,807〔9,807〕 (9,807〔9,807〕)	0 (0)	0 (0)	学術雑誌は学部共通、電子ジャーナルは大学全体で共用
計	7,646〔937〕 (7301〔892〕)	7〔0〕 (7〔0〕)	153〔27〕 (153〔27〕)	9,807〔9,807〕 (9,807〔9,807〕)	0 (0)	0 (0)	

スポーツ施設等	スポーツ施設	講堂	厚生補導施設	
	1,325.79㎡	0㎡	5,692.11㎡	大学全体

経費の見積り及び維持方法の概要 経費の見積り 区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
教員１人当り研究費等		400千円	400千円	400千円	400千円	― 千円	― 千円	共同研究費は大学全体
共同研究費等		11,000千円	11,000千円	11,000千円	11,000千円	― 千円	― 千円	
図書購入費	4,200千円	4,200千円	4,200千円	4,200千円	4,200千円	― 千円	― 千円	
設備購入費	19,200千円	19,200千円	19,200千円	19,200千円	19,200千円	― 千円	― 千円	

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
	1,462千円	1,462千円	1,462千円	1,462千円	― 千円	― 千円

学生納付金以外の維持方法の概要	寄付金,雑収入　他

	大学等の名称	大正大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
		年	人	年次 人	人		倍			
既設大学等の状況	仏教学部	4	100	3年次 33	466		0.92	平成22	東京都豊島区西巣鴨三丁目20番1号	※令和4年度より編入学定員増加
	仏教学科	4	100	33	466	学士（仏教学）	0.92	平成22	同上	
	社会共生学部	4	195	3年次 2	784		0.91	令和2	同上	
	公共政策学科	4	130	－	520	学士（公共政策学）	0.89	令和2	同上	
	社会福祉学科	4	65	2	264	学士（社会福祉学）	0.94	令和2	同上	
	人間学部	4	－	3年次 －	－		－	平成5	同上	※令和2年度より学生募集停止（社会福祉学科、人間環境学科、教育人間学科）
	社会福祉学科	4	－	－	－	学士（社会福祉学）	－	平成5	同上	
	人間環境学科	4	－	－	－	学士（人間環境学）	－	平成23	同上	
	教育人間学科	4	－	－	－	学士（教育人間学）	－	平成23	同上	
	心理社会学部	4	230	3年次 4	928		1.17	平成28	同上	
	人間科学科	4	120	2	484	学士（人間科学）	1.07	平成28	同上	
	臨床心理学科	4	110	2	444	学士（臨床心理学）	1.27	平成28	同上	
	文学部	4	295	3年次 6	1192		1.10	平成15	同上	
	人文学科	4	65	2	265	学士（人文学）	1.12	平成22	同上	
	日本文学科	4	70	2	282	学士（日本文学）	1.15	平成27	同上	
	歴史学科	4	160	2	645	学士（歴史学）	1.07	平成15	同上	
	表現学部	4	205	3年次 －	820		1.12	平成22	同上	
	表現文化学科	4	205	－	820	学士（表現文化）	1.12	平成22	同上	
	地域創生学部	4	100	3年次 －	400		0.99	平成28	同上	
	地域創生学科	4	100	－	400	学士（経済学）	0.99	平成28	同上	

	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
既設大学等の状況	仏教学研究科									
	仏教学専攻									
	博士前期課程	2	30	－	60	修士（仏教学）	0.75	平成13	東京都豊島区西巣鴨三丁目20番1号	
	博士後期課程	3	7	－	21	博士（仏教学）	0.76	平成13	同上	
	人間学研究科									
	社会福祉学専攻									
	修士課程	2	5	－	10	修士（社会福祉学）	0.60	平成13	同上	
	臨床心理学専攻									
	修士課程	2	18	－	36	修士（臨床心理学）	0.97	平成13	同上	
	人間科学専攻									
	修士課程	2	3	－	6	修士（人間科学）	0.00	平成13	同上	
	福祉・臨床心理学専攻									
	博士後期課程	3	3	－	9	博士（人間学）	0.00	平成13	同上	
	文学研究科									
	宗教学専攻									
	博士前期課程	2	5	－	10	修士（文学）	1.40	昭和27	同上	
	博士後期課程	3	2	－	6	博士（文学）	0.67	昭和32	同上	
	史学専攻									
	博士前期課程	2	10	－	20	修士（文学）	0.95	昭和54	同上	
	博士後期課程	3	2	－	6	博士（文学）	0.67	昭和54	同上	
	国文学専攻									
	博士前期課程	2	3	－	6	修士（文学）	0.83	昭和27	同上	
	博士後期課程	3	2	－	6	博士（文学）	0.00	昭和32	同上	
	比較文化専攻									
	博士前期課程	2	－	－	－	修士（文学）	－	平成9	同上	※令和3年度より学生募集停止（比較文化専攻（修・博））
	博士後期課程	3	－	－	－	博士（文学）	－	平成11	同上	

附属施設の概要	名　称　：　綜合仏教研究所 目　的　：　本学の設立理念である仏教精神の体現を基盤として、仏教とその文化に関する研究及び有為な研究者の育成を行う。 所在地　：　東京都豊島区西巣鴨３丁目20番1号 設置年月：　昭和32年4月 規模等　：　259.26㎡（教育・研究棟の一部）	
	名　称　：　カウンセリング研究所 目　的　：　本学の設立理念である仏教精神の体現を基盤として、カウンセリングの理論・技法及びその実践に関する教育と研究を行う。 所在地　：　東京都豊島区西巣鴨３丁目20番1号 設置年月：　昭和38年4月 規模等　：　296.13㎡（教育・研究棟の一部）	
	名　称　：　地域構想研究所 目　的　：　地域課題解決のための基礎研究を行い、地域創生のための新しい価値を「共創」することによって地域や社会に貢献する。 所在地　：　東京都北区滝野川６丁目2番3号 設置年月：　平成26年10月 規模等　：　511.28㎡（研究棟の一部）	
	名　称　：　エンロールメント・マネジメント研究所 目　的　：　学生の入学前から卒業後までの一貫した情報を収集・分析・提供し、教育・研究・社会貢献等の企画・立案・支援を行い、本学のみならず大学教育全体に貢献する。 所在地　：　東京都豊島区西巣鴨３丁目20番1号 設置年月：　平成29年10月 規模等　：　62.03㎡（本部棟の一部）	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（表現学部メディア表現学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
第Ⅰ類科目		人間の探究Ⅰ	1①		2			○				1	1			16	共同
		人間の探究Ⅱ	1②		2			○				1	1			16	共同
		人間の探究Ⅲ	1④		2			○				1	1			16	共同
		小計（3科目）	－	－	6	0	0	－			0	1	1	0	0	16	
		社会の探究Ⅰ	1①		2			○					1			16	共同
		社会の探究Ⅱ	1②		2			○					1			16	共同
		社会の探究Ⅲ	1④		2			○					1			16	共同
		小計（3科目）	－	－	6	0	0	－			0	0	1	0	0	16	
		自然の探究Ⅰ	1①		2			○								20	共同
		自然の探究Ⅱ	1②		2			○								20	共同
		自然の探究Ⅲ	1④		2			○								20	共同
		小計（3科目）	－	－	6	0	0	－			0	0	0	0	0	20	
		総合英語Ⅰ	1①		1				○		1					15	メディア（一部）
		総合英語Ⅱ	1②		1				○		1					15	メディア（一部）
		総合英語Ⅲ	1④		1				○		1					15	メディア（一部）
		小計（3科目）	－	－	3	0	0	－			1	0	0	0	0	15	
		データサイエンスⅠ	1①		1				○							16	共同
		データサイエンスⅡ	1②		1				○							16	共同
		データサイエンスⅢ	1④		1				○							16	共同
		データサイエンスⅣ	2①		1				○							18	共同
		データサイエンスⅤ	2②		1				○							18	共同
		データサイエンスⅥ	2④		1				○							18	共同
		小計（6科目）	－	－	6	0	0	－			0	0	0	0	0	18	
		リーダーシップⅠ	2①		1				○							6	共同
		リーダーシップⅡ	2②		1				○				1			3	共同
		リーダーシップⅢ	2④		1				○				1			3	共同
		小計（3科目）	－	－	3	0	0	－			3	0	1	0	0	9	
第Ⅱ類科目	全学共通	学融合ゼミナールⅠ	2①②		2			○			1		1			6	メディア・ギムニバス・共同（一部）
		学融合ゼミナールⅡ	3①②		2			○			1		1			6	メディア・ギムニバス・共同（一部）
		小計（2科目）	－	－	4	0	0	－			1	0	1	0	0	6	
	基礎部門	表現基礎ゼミナールⅠ	1①	○		2			○		4	1	3				
		表現基礎ゼミナールⅡ	1②	○		2			○		4	1	3				
		表現基礎ゼミナールⅢ	1④	○		2			○		4	1	3				
		表現研究Ａ	1④			1			○							1	メディア
		表現研究Ｂ	1④			1			○							1	
		表現研究Ｃ	1④			1			○							1	
		表現研究Ｄ	1①			1			○							1	
		小計（7科目）	－	－	0	10	0	－			4	1	3	0	0	4	
	研究部門	放送・映像メディア研究Ａ	2①②④	○		2			○		1		3				
		放送・映像メディア研究Ｂ	2・3・4①②④			2			○							3	
		放送・映像メディア研究Ｃ	2・3・4①②④			2			○							3	
		放送・映像メディア研究Ｄ	2・3・4休			2			○		1		3				
		アート＆エンターテインメントワーク研究Ａ	2・3・4①②④			2		○								5	
		アート＆エンターテインメントワーク研究Ｂ	2・3・4①②④			2		○				1				2	メディア（一部）
		アート＆エンターテインメントワーク研究Ｃ	2・3・4①②④			2		○			1					1	
		アート＆エンターテインメントワーク研究Ｄ	2・3・4①②④			2		○			1					4	
		小計（8科目）	－	－	0	16	0	－			3	1	3	0	0	18	
	演習部門	放送・映像メディア演習Ａ	2・3・4①②④	○		2			○							2	
		放送・映像メディア演習Ｂ	2・3・4①②④			2			○							1	
		放送・映像メディア演習Ｃ	2・3・4①②④			2			○							1	
		放送・映像メディア演習Ｄ	2・3・4①②④			2			○							1	
		放送・映像メディア演習Ｅ	2・3・4①②④			2			○							1	
		放送・映像メディア演習Ｆ	2・3・4①②④			2			○		1		3				
		放送・映像メディア演習Ｇ	2・3・4①②④			2			○		1		3				
		放送・映像メディア演習Ｈ	2・3・4①②④			2			○		1		3				
		アート＆エンターテインメントワーク演習Ａ	2・3・4④			2			○		1						
		アート＆エンターテインメントワーク演習Ｂ	2・3・4①			2			○							4	
		アート＆エンターテインメントワーク演習Ｃ	2・3・4①			2			○							2	
		アート＆エンターテインメントワーク演習Ｄ	2・3・4①			2			○							2	
		アート＆エンターテインメントワーク演習Ｅ	2・3・4④			2			○		1						
		アート＆エンターテインメントワーク演習Ｆ	2・3・4①			2			○							4	
		アート＆エンターテインメントワーク演習Ｇ	2・3・4①			2			○							2	
		アート＆エンターテインメントワーク演習Ｈ	2・3・4①			2			○							2	
		小計（16科目）	－	－	0	32	0	－			2	0	3	0	0	14	
	共通科目	コミュニケーション技法Ａ	2・3・4④			2		○								1	
		コミュニケーション技法Ｂ	2・3・4④			2		○								1	
		コミュニケーション技法Ｃ	2・3・4④			2		○								1	
		コミュニケーション技法Ｄ	2・3・4④			2		○								1	
		インターンシップＡ	1・2・3・4①②④			1				○	1		3				
		インターンシップＢ	1・2・3・4①②④			1				○	1		3				
		インターンシップＣ	1・2・3・4①②④			1				○	3	1					
		インターンシップＤ	1・2・3・4①②④			1				○	3	1					
		小計（8科目）	－	－	0	12	0	－			4	1	3	0	0	2	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
第Ⅱ類科目	PBL	メディア表現PBLⅠ	1③	○	6					○	4	1	3				
		メディア表現PBLⅡ	2③	○	6					○	4	1	3				
		メディア表現PBLⅢ	3③	○	6					○	4	1	3			2	
		小計（3科目）	－	－	18	0	0	－			4	1	3	0	0	2	
	ワークショップ	ワークショップⅠ	2①②④	○	3				○		3	1				7	
		ワークショップⅡ	2①②④	○	3				○		3	1				7	
		ワークショップⅢ	2①②④	○	3				○		3	1				7	
		小計（3科目）	－	－	9	0	0	－			3	1	0	0	0	7	
	専門ゼミナール	専門ゼミナールⅠ	3・4①	○	3				○		4	1	3			3	
		専門ゼミナールⅡ	3・4②	○	3				○		4	1	3			3	
		専門ゼミナールⅢ	3・4④	○	3				○		4	1	3			3	
		専門ゼミナールⅣ	3・4①	○	3				○		4	1	3			3	
		専門ゼミナールⅤ	3・4②	○	3				○		4	1	3			3	
		専門ゼミナールⅥ	3・4④	○	3				○		4	1	3			3	
		小計（6科目）	－	－	18	0	0	－			4	1	3	0	0	3	
		卒業論文	4通	○		8			○		3	1	1				
		卒業制作	4通	○		8			○		1	1	3			2	
		小計（2科目）	－	－	0	16	0	－			4	1	3	0	0	2	
第Ⅲ類科目	アントレプレナーシップ育成教育プログラム	超スマート社会論	2①～②			2		○								1	メディア
		新共生社会論	2①～②			2		○								1	メディア
		地域人イズム論	2③～④			2		○								1	メディア
		アントレプレナーシップ論	2③～④			2		○								1	メディア
		ロジカルシンキング	3①②④・4①②			2		○								2	
		データ分析技法	3①②④・4①②			2		○								1	
		プログラミングの基礎	3①②④・4①②			2		○								1	
		ファイナンスの基礎	3①②④・4①②			2		○								1	
		財務会計の基礎	3①②④・4①②			2		○								2	
		マーケティングの基礎	3①②④・4①②			2		○								2	
		言語表現技術Ⅰ	3①②④・4①②			2		○								1	
		言語表現技術Ⅱ	3①②④・4①②			2		○								1	
		情報表現技術Ⅰ	3①②④・4①②			2		○								1	
		情報表現技術Ⅱ	3①②④・4①②			2		○								1	
		キャリア探究A	3①②④・4①②			2		○								1	
		キャリア探究B	3①②④・4①②			2		○								1	
		キャリアデザインA	3①②④・4①②			2		○								4	
		キャリアデザインB	3①②④・4①②			2		○								3	
		コミュニケーション	3①②④・4①②			2		○								2	
		リーダーシップ	3①②④・4①②			2		○								1	
		ファシリテーション	3①②④・4①②			2		○								3	
		プレゼンテーション	3①②④・4①②			2		○								3	
		マネジメント	3①②④・4①②			2		○								1	
		ビジネス英語	3①②④・4①②			2			○							1	
		ビジネス中国語	3①②④・4①②			2			○							1	
		マイスターワークショップ	3・4			6			○							15	
		マイスターフィールドワーク	3・4			6			○							1	
		マイスターインターンシップ	3・4			6				○						1	
		短期留学	3・4			6				○						1	
		海外インターンシップ	3・4			6				○						1	
		小計（30科目）	－	－	0	80	0	－			0	0	0	0	0	45	
合計（106科目）			－	－	79	166	0	－			4	1	3	0	0	160	

学位又は称号	学士（メディア表現）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
第Ⅰ類科目30単位以上, 第Ⅱ類科目70単位以上（必修科目を含む）, 第Ⅲ類科目24単位以上, 合計124単位以上修得すること。第Ⅲ類科目のうち, 超スマート社会論, 新共生社会論, 地域人イズム論, アントレプレナーシップ論から4単位選択必修。ただし, 第Ⅱ類科目として履修した単位は, 20単位までは第Ⅲ類科目に繰り入れることができる。 （履修科目の登録の上限：12単位（1クォーター）） なお, 第Ⅱ類科目のうち, 表現基礎ゼミナールⅠ, 表現基礎ゼミナールⅡ, 表現基礎ゼミナールⅢ, 表現研究A, 表現研究B, 表現研究C, 表現研究Dから6単位, 卒業論文, 卒業研究から8単位を選択必修とする。	1学年の学期区分	4学期
	1学期の授業期間	7週
	1時限の授業の標準時間	100分

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要					
（表現学部メディア表現学科）					
科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
第Ⅰ類科目		人間の探究Ⅰ		「人間の探究」は３クォーター（合計６単位：100分授業×週２回）にわたって開講する。第1クォーターに開講される「人間の探究Ⅰ」は、人間が蓄積してきた知の総体である「文化」（文学・歴史・思想・心理・宗教・芸術など）について学びながら、世界や日本、地域、そして他者・自己を観る視点を養うとともに、自らの生き方について考えを深めることを目的とする。授業は講義形式で進めつつ、適宜、グループワークを主としたアクティブラーニングを実施する。講義とグループワークのなかで、担当教員が設定したテーマに関する基礎的な知識を身につけることを目指す。 また、同時に講義とグループワークのなかで他者と対話することを通じて、大学で学ぶ仲間をつくり、自己理解を深め、自ら学ぶ姿勢を整える。「人間の探究Ⅰ」では、高校の学びから大学の学びへの転換を図るため、今の自分の現状を把握する。	共同
		人間の探究Ⅱ		第2クォーターに開講する。「人間の探究Ⅰ」に引き続いて、人間が蓄積してきた知の総体である「文化」（文学・歴史・思想・心理・宗教・芸術など）について学びながら、世界や日本、地域、そして他者・自己を観る視点を養うとともに、自らの生き方について考えを深めることを目的とする。授業は講義形式で進めつつ、適宜、グループワークを主としたアクティブラーニングを実施する。「人間の探究Ⅰ」で学んだスキルや知識を活用しつつ、担当教員が設定したテーマについて理解を深めることを目指す。最終的には、これまでの学びや自己理解をふまえて、「大学で学ぶことの意味」をテーマとしたレポートを作成する。	共同
		人間の探究Ⅲ		第4クォーターに開講する。「人間の探究Ⅱ」に引き続いて、人間が蓄積してきた知の総体である「文化」（文学・歴史・思想・心理・宗教・芸術など）について学びながら、世界や日本、地域、そして他者・自己を観る視点を養うとともに、自らの生き方について考えを深めることを目的とする。授業は講義形式で進めつつ、適宜、グループワークを主としたアクティブラーニングを実施する。これまでの経験や学びをふまえて、人間というテーマについてさらに見聞や洞察を広げ深めるとともに、それらを統合することを目指す。最終的には、自分が世界や社会、他者とどうつながり貢献していくかを考え、「未来計画書」を作成する。	共同
		社会の探究Ⅰ		「社会の探究」は３クォーター（６単位：100分授業×週２回）にわたって開講する。第1クォーターに開講する「社会の探究Ⅰ」は、変動の激しい現代社会をさまざまな観点から理解するとともに、私たちが他者と協働しながら、いかに理想的な社会を実現していくかについて学ぶことを目的とする。授業は講義形式で進めつつ、適宜、グループワークを主としたアクティブラーニングを実施する。授業を通して、社会の課題を発見するために必要な情報を収集・分析する力、本質を見極めて解決策を考える力を養うとともに、他者に伝える表現力、責任をもって課題に取り組む主体性を身につけることを目指す。 また「社会の探究Ⅰ」では、「社会の探究Ⅱ」で展開される「ミニプロジェクト」に取り組むための助走期間と位置付ける。グループワークを通じて現代社会の課題を「自分ごと」として捉える視座を身につけ、プレゼンテーションのスキルを学びながら、仲間と協働する態勢を整える。	共同
		社会の探究Ⅱ		第2クォーターに開講する。「社会の探究Ⅰ」に引き続いて、変動の激しい現代社会をさまざまな観点から理解するとともに、私たちが他者と協働しながら、いかに理想的な社会を実現していくかについて学ぶことを目的とする。授業は講義形式で進めつつ、適宜、グループワークを主としたアクティブラーニングを実施する。人権や経済という切り口から現代社会の課題に「自分ごと」として関わる態度を身につけるとともに、地域（local）の視座に立った「ミニプロジェクト」を行なう。他者との協働、情報の収集、課題の発見・問題の解決、プレゼンテーションに取り組むことで、チームづくりに必要な力を深める。	共同
		社会の探究Ⅲ		第4クォーターに開講する。「社会の探究Ⅱ」に引き続いて、変動の激しい現代社会をさまざまな観点から理解するとともに、私たちが他者と協働しながら、いかに理想的な社会を実現していくかについて学ぶことを目的とする。授業は講義形式で進めつつ、適宜、グループワークを主としたアクティブラーニングを実施する。これまでの学びを統合しながら、地域（local）における課題に「自分ごと」としてかかわり、その解決策をより多角的な観点から考察を深めることを目指す。具体的には、チームの仲間とともに「ファイナルプロジェクト」を完成させて、プレゼンテーションを行なう。	共同
		自然の探究Ⅰ		「自然の探究」は３クォーター（６単位：100分授業×週２回）にわたって開講する。第1クォーターに開講する「自然の探究Ⅰ」は、地球環境をめぐるさまざまな問題を多角的に検討するとともに、自然環境と人間活動とのかかわりについて洞察を深めることを目的とする。授業は講義形式で進めつつ、適宜、グループワークを主としたアクティブラーニングを実施する。 また「自然の探究」では、論理的な思考力を涵養し、大学での学びに必要となる文章作成力を身につけることを目指す内容も展開される。「自然の探究Ⅰ」では思考や表現・表記について学ぶとともに、大学のレポートと高校までの感想文との相違など、レポート作成上の基礎について理解を深める。	共同
		自然の探究Ⅱ		第2クォーターに開講する。「自然の探究Ⅰ」に引き続いて、地球環境をめぐるさまざまな問題を多角的に検討するとともに、自然環境と人間活動とのかかわりについて洞察を深めることを目的とする。授業は講義形式で進めつつ、適宜、グループワークを主としたアクティブラーニングを実施する。「自然の探究Ⅱ」では、担当教員が設定したテーマについて理解を深めるとともに、レポート作成のトレーニングに力を入れる。とくに、発想力や読解力といったレポート・論文を書くための基礎能力を身につけることを目指す。	共同
		自然の探究Ⅲ		第4クォーターに開講する。「自然の探究Ⅱ」に引き続いて、地球環境をめぐるさまざまな問題を多角的に検討するとともに、自然環境と人間活動とのかかわりについて洞察を深めることを目的とする。授業は講義形式で進めつつ、適宜、グループワークを主としたアクティブラーニングを実施する。「自然の探究Ⅲ」はこれまでの学びの統合が果たされる。つまり自然環境と人間活動とのかかわりについての知識と、論理的な思考力や文章作成力にもとづいて、一年間の学びの集大成としてアカデミックエッセイを執筆することを目指す。	共同
		総合英語Ⅰ		「総合英語」では、年間を通して一貫した方針の下、対面授業とオンデマンド型授業を組み合わせることによって、総合的な英語力の育成を目的とする。 対面授業では、多様なトピックの中から語彙や表現を学び、ペアワークやグループワーク、発表といった活動を通じてコミュニケーションに必要な英語力を身につけるとともに、大学生として必要なリーディング力の強化を図る。 eラーニングシステムを使ったオンデマンド型授業では、語彙や文法、リスニング・リーディング演習をおこない、自律的な英語学習を促しながら情報収集や意見の発信に必要な英語力を強化する。	メディア（一部）
		総合英語Ⅱ		「総合英語」では、年間を通して一貫した方針の下、対面授業とオンデマンド型授業を組み合わせることによって、総合的な英語力の育成を目的とする。 対面授業では、多様なトピックの中から語彙や表現を学び、ペアワークやグループワーク、発表といった活動を通じてコミュニケーションに必要な英語力を身につけるとともに、大学生として必要なリーディング力の強化を図る。 eラーニングシステムを使ったオンデマンド型授業では、語彙や文法、リスニング・リーディング演習をおこない、自律的な英語学習を促しながら情報収集や意見の発信に必要な英語力を強化する。	メディア（一部）
		総合英語Ⅲ		「総合英語」では、年間を通して一貫した方針の下、対面授業とオンデマンド型授業を組み合わせることによって、総合的な英語力の育成を目的とする。 対面授業では、多様なトピックの中から語彙や表現を学び、ペアワークやグループワーク、発表といった活動を通じてコミュニケーションに必要な英語力を身につけるとともに、大学生として必要なリーディング力の強化を図る。 eラーニングシステムを使ったオンデマンド型授業では、語彙や文法、リスニング・リーディング演習をおこない、自律的な英語学習を促しながら情報収集や意見の発信に必要な英語力を強化する。	メディア（一部）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
第Ⅰ類科目		データサイエンスⅠ		演習形式で行う。「データサイエンス」とはデータを用いて新たな科学的および社会に有益な知見を引き出そうとするアプローチのことであり、もはやデータサイエンスがなければ世の中が成り立たないといっても過言ではない。「データサイエンス」科目では、自らとデータサイエンスとつなぐ道を開くために、データとは何なのか、データを活用するとはどういうことなのかを学ぶ講義を開催する。 データサイエンスⅠでは、データサイエンスとは何かを学び、更に身近な事例や社会で活用されている事例を通してデータを活用するスキルの必要性を理解すると同時に統計学の基礎知識を習得する。またPCやデータを利用する際に必要となる情報リテラシーについても学ぶ。演習では統計の基礎知識と連動してExcelの基本操作を習得する。	共同
		データサイエンスⅡ		演習形式で行う。データサイエンスⅡでは、世の中におけるデータサイエンスの現状や及ぼす影響等について幅広く学び、どのような手段、手法、仕組みを通じて有効に活用できるかを学ぶ。さらにはAIについて、体験型のワークを通して、AI活用のイメージを明確にしたうえで、AI可能性や面白さを知り、AIの今後の活用の可能性について理解を深める。演習では統計学の基礎知識からのデータの扱い方、データのばらつきと傾向の表し方、さらにはグラフの読み取りと表現方法をExcelスキル習得と合わせて学ぶ。	共同
		データサイエンスⅢ		演習形式で行う。データサイエンスⅢでは、tableauを活用してデータを探索的に分析し、わかりやすく可視化して伝達する基本スキルを習得すると同時に、データ分析から課題解決につながる課題抽出力の基礎を学ぶ。さらにはBIツールのベースとして使われているデータベースの仕組みやデータの型、データ属性なども含めて学ぶ。	共同
		データサイエンスⅣ		演習形式で行う。データサイエンスⅣの「問題解決型ミッション」やデータサイエンスⅥの「価値創造型ミッション」に取り組む前提として、tableauを活用して目的に合致した実用的なチャート、適切なグラフ表現、さらには効果的なダッシュボード作成を目指す。 tableauの演習ではデータに対して適切なグラフの種類の選び方と各グラフの留意点を習得し、基本的なビジュアライゼーションが作成するスキルを身につける。また世の中でAIが活用されている事例を幅広く知り、常に進化する技術の動向についても関心と理解を深めた上で、AI活用社会の未来について理解と想像力を高める。	共同
		データサイエンスⅤ		演習形式で行う。「問題解決型ミッション形式」にて社会の課題解決力の習得を目指す。 「問題解決」とは「理想の姿」を実現するために「現実とのギャップ」を埋めることである。企業のデータを活用し、企業の抱える問題に対してどのように解決を図るのかを、データ分析から仮説を導き出し、さらには解決策の提案まで行う力を身につける。tableauの演習では複数テーブルの扱いを含むデータの整形および計算式における条件分岐の記述、さらに表計算を活用したビジュアライズを習得する。	共同
		データサイエンスⅥ		演習形式で行う。「価値創造型ミッション形式」にて社会の課題解決力の習得を目指す。企業のデータと合わせてオープンデータも活用して、複数のデータ分析から多面的な課題抽出を行い、課題の発見と解決策の構築について、演習を通じて学び、提言につながる学修を行なう。Tableauの演習ではダッシュボードをインタラクティブにする方法を学ぶ他、聴き手にスピーディに正しく情報を伝達するために必要な考え方やスキルを習得する。 データサイエンスⅥ終了時には様々なデータからの統計分析や論理的な思考スキルを身に付け、課題の発見や解決、社会への価値創造につながる仮説を構築する力を習得する。	共同
		リーダーシップⅠ		演習形式で行う。適宜、議論・討論やプレゼンテーションを交え、アクティブラーニングで実施する。現代日本社会には地域活性化や福祉の充実、自然の再生など、取り組むべき多くの課題がある。これらの課題にはいくつもの要因が複雑に絡まり、その解決・実現には人と人とが多様なアイディアをもち寄り、協働することが必要となる。こうした現代社会を生き、自身の出会う課題と向かい合ううえで注目されているのが、リーダーシップという考え方である。この科目では、こうした「リーダーシップ」についてワークを交えながら経験的に学び、履修者それぞれが自身のリーダーシップ観を知り、またそれを再構成することを目的に据える。	共同
		リーダーシップⅡ		演習形式で行う。適宜、議論・討論やプレゼンテーションを交え、アクティブラーニングで実施する。大学卒業後、どのように自分が社会と接続していくのか、意識を高めていく大事な時期である。自分らしいリーダーシップとは何かをさらに深め、社会からの求めに自らがいかに応えるかについてよく考え、社会にエントリーする準備を整えることが、この授業の目的である。 リーダーシップⅠを通して深めた自己理解を基盤として、社会に接続していく準備を行う。そのために、社会人として身につけておくべきマナーや学力を理解し、社会で働くことの意義について考える。また、これまでの学業や生活を振り返り、自身が取り組んできたことやこれから挑戦したいことを整理し、社会に向けて自分を表現する準備を行う。	共同
		リーダーシップⅢ		演習形式で行う。適宜、議論・討論やプレゼンテーションを交え、アクティブラーニングで実施する。自らの強みを知り、目指すリーダーシップ像に近づいていくために、今後の大学生活をいかに過ごしていくのかを考える機会とし、リーダーシップⅡに引き続いて、社会にエントリーする準備を展開させることがこの授業の目的である。 リーダーシップⅠ・Ⅱで取り組んだ自己分析（自分が目指すリーダーシップ像はどのようなものなのか、自分はどのような適性や能力を持っていて、どのような目標や夢を目指すのか）を踏まえて、現時点で興味のある進路について研究を行うことで、卒業後の進路や職業を主体的に考え、キャリアを形成していくことを目指す。	共同
第Ⅱ類科目	全学共通	学融合ゼミナールⅠ		オンデマンドによる講義形式で行う。複数のディシプリン（分野・領域）の連携や交流、融合により、異なる分野の専門知を横断的にとらえ、新たな知として形にする力の育成を目指し、クロスディシプリン（複数の分野・領域の連携と融合）の実現を目的とする。「街文化の融合」では、街から生まれる文化を多角的に分析する。仏教宗派の歴史を学び、街と文化の発展の基礎を学ぶ。著名人と街の関わりという視点から街と文化を表出し、多様な方面から事象を捉える方法を習得する。 （オムニバス方式／全14回） （167 ヨシムラヒロム／5回） 松本人志と尼崎について分析する。 ビートたけしと浅草について分析する。 宮藤官九郎と池袋について分析する。 鈴木敏夫と名古屋について分析する。 みうらじゅんと京都について分析する。 （47 影山裕樹／2回） 地域を編集する仕事について知る。 地域を編集する仕事について理解を深める。 （9 仲俣暁生／2回） 雑誌と街文化について知る。 雑誌と街文化について分析する。 （49 長澤昌幸／2回） 大正大学の歴史と巣鴨について知る。 日本の生活と仏教について学ぶ。 （38 木内堯大・49 長澤昌幸／1回　共同） 日本仏教と天台宗について学ぶ。 （48 大鹿眞央・49 長澤昌幸／1回　共同） 日本仏教と真言宗について学ぶ。 （37 石川琢道・49 長澤昌幸／1回　共同） 日本仏教と浄土宗について学ぶ。	メディア オムニバス方式 共同（一部）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
第Ⅱ類科目	全学共通	学融合ゼミナールⅡ		オンデマンドによる講義形式で行う。複数のディシプリン（分野、領域）の連携と交流、相互理解を通して現代社会の課題を解決する力を養う。文化の発展とその表現が「街」として構成される過程に着目し、過去において「寺院と町」が街を形成した歴史を踏まえ、多面的なアプローチを駆使して文化の形成を総合的に追究する。その視点の中で、複雑かつ多様な現代社会を写す「街」の文化と表現を理解し、その活用としての「地域戦略人材」を担う思考を修得する。 （オムニバス方式／全14回） （167 ヨシムラヒロム／3回） 街の中に寺院を探す。 街の中の寺院の現在を探る。 街の中の寺院の歴史を繙く。 （47 影山裕樹／4回） 街の中の寺院の構成を知る。 街の中の寺院の要素学ぶ。 街の中の寺院の取材で寺院に触れる。 街の中の寺院の取材で理解を深める。 （9 仲俣暁生／2回） 街の中の寺院記事の編集を行う。 アカデミックライティングの技法を知る。 （49 長澤昌幸／2回） 街の中の寺院の歴史を知る。 街の中の寺院の歴史を学ぶ。 （38 木内堯大・49 長澤昌幸／1回　共同） 街の中の寺院の過去を知る。 （48 大鹿眞央・49 長澤昌幸／1回　共同） 街の中の寺院の現在を知る。 （37 石川琢道・49 長澤昌幸／1回　共同） 街の中の寺院の地域戦略と人の関わりを紐解く。	メディア オムニバス方式 共同（一部）
	基礎部門	表現基礎ゼミナールⅠ	○	演習形式で行う。セルフマーケティングの理論をベースに、これまでの成長過程を振り返りながら、自尊感情（自己肯定感と自己有用感）について考え、社会との接点を模索する。受講者のイメージ構築、ブランディングに必要な基礎的なスキルの習得と、多メディア時代に社会人として求められるリテラシー、臨場感を醸成し、その向上を目指す。「表現基礎ゼミナールⅠ」においてはその重要性を理解するため、学習の最終形（将来像）を示し、自らの未来像を描く。 放送・映像メディアコースでは、4年間の導入としてコースの学修をよりよく知るために、映像を通じて思考する力や、作品や社会に対する批判的な視点を養うための講義や実習を行う。	
		表現基礎ゼミナールⅡ	○	演習形式で行う。セルフマーケティングの理論をベースに、これまでの成長過程を振り返りながら、自尊感情（自己肯定感と自己有用感）について考え、社会との接点を模索する。受講者のイメージ構築、ブランディングに必要な、基礎的なスキルの習得と、多メディア時代に社会人として求められるリテラシー、臨場感を醸成し、その向上を目指す。「表現基礎ゼミナールⅡ」においてはワークに取り組み、「表現基礎ゼミナールⅠ」の学修を深化させる。 放送・映像メディアコースでは、「表現基礎ゼミナールⅠ」の内容をふまえ、映像を通じて思考する力や、作品や社会に対する批判的な視点をさらに深化させるための講義や実習を行う。	
		表現基礎ゼミナールⅢ	○	演習形式で行う。セルフマーケティングの理論をベースに、これまでの成長過程を振り返りながら、自尊感情（自己肯定感と自己有用感）について考え、社会との接点を模索する。受講者のイメージ構築、ブランディングに必要な、基礎的なスキルの習得と、多メディア時代に社会人として求められるリテラシー、臨場感を醸成し、その向上を目指す。「表現基礎ゼミナールⅢ」においてはジャーナリズム、著作権など法的手法、セルフマーケティングの理論の基礎を固める。 放送・映像メディアコースでは、「表現基礎ゼミナールⅡ」の内容をふまえつつ、学生それぞれの適性に従って2年次以降の専門的な学修へと移行するための講義や実習を行う。	
		表現研究A		オンデマンドによる演習形式で行う。言語芸術としての文芸作品の表現に主眼を置き、何をどう表現しているかを追究する。日本文芸史についても言及していく。 同じことを言い表すにも作家の固有の表現は、他の追随を許さぬ優れた表現世界を描出する。作品の表現構造・表現技法・表現の類型・表現の引用・表現の借景等に着目し、構築された作品世界についての描かれ方の表現論を通して、各自が「表現とは何か」に触れ、学びの入り口を発見することを目指す。	メディア
		表現研究B		演習形式で行う。各回異なるテーマを設定し、様々な角度から日本語を捉えていく。新しい発見、既習の事柄の再確認など、それぞれが思考をめぐらせ、知識を得られる進行を企図する。言葉への理解を深めることは、これからの社会生活をより豊かにする手助けになる。主として次の3点を重視して展開する。 ①言葉の意味・語法の理解を深めながら、日本語語彙の基礎を広く学ぶ。 ②種々の用例を取り上げながら、場面や用途にふさわしい言葉の使い方を学ぶ。 ③文章の読解、漢字や語彙の問題演習などを通じて文章表現力を高める。	
		表現研究C		演習形式で行う。大学でのレポート作成方法を理解することを念頭に展開する。他の授業のレポート課題にも応用できる、基礎講座の位置づけである。主な目的は、以下の8点である。 ①大学でレポートを書くために、レポートとは何かを知る。 ②調査報告型レポートの作成方法を修得する。 ③レポートを作成するため、情報管理・情報収集方法について理解する。 ④レポート作成に必要な基礎的な漢字語彙力を身につける。 ⑤レポート作成に必要な書き言葉、日本語表記ルールを修得する。 ⑥調査資料を分析するために、文章読解・要約の方法を身につける。 ⑦調査資料を整理し、レポートを構築するために、思考力、文章を構成する力を身につける。 ⑧アクティブ・ラーニングを通してディスカッションや、情報共有、ピアワークを行うことにより、他社と協力しコミュニケーションを取る力を身につける。	
		表現研究D		演習形式で行う。日々、生活をする中で私たちは気づきを繰り返している。心の微妙な揺れがセンサーとなり、新たな発見を続ける。他人も興味を引くもの、自分にしか理解できないもの、と気づきにも大小がある。ただ、どちらも確かな魅力が内包されていることに変わりはない。この授業では、そういった気づきを一冊のノートに集積していく作業を行う。気づきといった情報をまとめることによって、今後クリエーターとしてモノゴトを生み出していくための基礎力を修得する。	
	研究部門	放送・映像メディア研究A	○	演習形式で行う。4つのクラスに分かれて実施し、複数の教員が異なる役割を担当する。 ①座学、学外でのインタビューなどの実習やディスカッションを通じ、ラジオなどの放送メディアを理解し、音声コンテンツを制作する。 ②監督・脚本・制作・撮影・録音など役割を分担してチームを編成し、グループごとに短編映画を制作する。 ③「放送・映像メディアコース」で学ぶ上での前提となる思考法や技能の習得、卒業後のキャリアビジョン、自由な作品制作を行う。 ④映像、画像、音声、テキストといった多様なメディアをアプリケーションソフト上で統合しつつ、体験型の作品として完成させる。	
		放送・映像メディア研究B		演習形式で行う。各クォーターで担当教員を変えて展開する。 ①Webやソーシャルを含めた「メディア」の存在意義と発信される情報の表現手法や技術についての知識を得て、メディアに関わる人材としての基礎を学び、メディア表現の在り方について考える姿勢を身につけるための講義を行う。 ②伝えるということを広告的なアプローチで考えるための事例を紹介し、メディアでどのような表現をするのかワークショップとして、ACCの「学生クリエイティブコンテスト」、ACジャパンの「広告学生賞」に応募チャレンジする。 ③政治社会情勢と過激な世論の動向に右顧左眄することのないメディア人になるため、必要な基礎と倫理、歴史観を習得するための講義を行う。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
第Ⅱ類科目	研究部門	放送・映像メディア研究C		演習形式で行う。各クォーターで担当教員を変えて展開する。 ①アニメーション作品を通して、世界と日本のメディアの歴史を知り、世界における日本アニメーションの位置づけを理解するための講義を行う。 ②世界の映像を通じて自らが表現（＝メッセージ）の受け手となり、様々な文化、価値観について学ぶことで、そこから自分が表現を発信するときのヒントをつかんでいくための講義を行う。 ③「物語性」について基礎知識を身につけ、複雑化する現代のカルチャー環境において、物語性を作り出すために必要な考え方を理解するための講義を行う。	
		放送・映像メディア研究D		演習形式で行う。「放送・映像メディア研究A」の再履修クラスのために開講する。 4つのクラスに分かれ、複数の教員が異なる役割を担当する。 ①座学、学外でのインタビューなどの実習やディスカッションを通じ、ラジオなどの放送メディアを理解し、音声コンテンツを制作する。 ②監督・脚本・制作・撮影・録音など役割を分担してチームを編成し、グループごとに短編映画を制作する。 ③「放送・映像メディアコース」で学ぶ上での前提となる思考法や技能の習得、卒業後のキャリアビジョン、自由な作品制作を行う。 ④映像、画像、音声、テキストといった多様なメディアをアプリケーションソフト上で統合しつつ、体験型の作品として完成させる。	
		アート&エンターテインメントワーク研究A		講義形式で行う。個人（ミクロ）から議論をはじめ、企業・産業（組織）から国民経済（マクロ）へと徐々に視野を広げていくことで、経済学の基礎理論となるミクロ経済学・マクロ経済学・統計の全体像をとらえる。また、それらの政策的な意味についても合わせて考察する。さらに、組織、企業研究についてケーススタディを取り入れながら考察を発展させる。また、アートの基本について学び、ジャポニスム、演技、パーフォーマンス等について研究する。	
		アート&エンターテインメントワーク研究B		オンデマンドと対面のハイブリットによる講義形式で行う。広告、広報、パブリック・リレーションズ（PR）の基礎知識とその応用・実践について学修する。情報社会において、情報の流通構造や多様な価値観を理解し、自らの考えを、論理的・創造的に社会に伝達することができるようになるための基礎知識を修得する。広報、パブリック・リレーションズ（PR）とは、社会全体（パブリック）との良好な関係構築（リレーションズ）活動であり、情報収集力、情報発信力の根幹をなす。学生が将来世の中に情報発信をする際に活用すべきPRの枠組みについて、様々な事例や議論をしながら提示する。	メディア（一部）
		アート&エンターテインメントワーク研究C		講義形式で行う。自らの作品や表現だけではなく、他者の作品や表現についても、知的財産権の観点から考え、適切に取り扱うための知識を身につける。知的財産権法の知識を修得し、知的財産権制度全般についての認識を深め、知的財産権に関する教養を養うことが目的である。また、知的財産管理技能検定３級合格レベルの知識を習得することを目標とする。	
		アート&エンターテインメントワーク研究D		講義形式で行う。マーケティングの基礎理論を学ぶ。受講者本人、ほかの受講者を「商品」に見立て、ビジュアル・イメージ構築、ブランディングに必要な基礎から、マーケティングとは何かを考える。マーケティングとは、企業が自社の製品・サービスを、それを求める顧客に提供し、売上・利益を上げ続ける仕組みづくりである。IT化などの技術革新やグローバル化によって日々複雑さが増している状況を具体例を用いつつ考察する。とりわけ、音楽産業や観光産業を具体例として事例研究を行う。	
	演習部門	放送・映像メディア演習A	○	演習形式で行う。映像作品を制作することに必要な基礎的な思考・スキルを身につけるため、特定のワンシーンを企画立案し、シナリオ化やコンテ作成を行い、撮影に至るまでの工程を演習形式で行う。スタジオの機能・空間を用いてドラマ形式のワンシーンをマルチ方式で撮影する。また映像美術に関する基礎的知識、安全知識を身につけるため、スタジオセットの基本構造を学び、美術セットを作る。加えてスタジオの機材の使用により、撮影技術の基礎を学ぶ。	
		放送・映像メディア演習B		演習形式で行う。クライアントワークとしてのWebサイト構築・管理・運用の実例を紹介しながら、現代社会におけるWebサイトというメディアの意義や重要性を認識するための講義を行う。その上で、専用ソフトウェアやCMS（コンテンツ・マネジメント・システム）を含むWebサイト構築・管理のための基本知識を学び、Webデザイン及びHTML・CSSなどのコーディングスキルを習得することで、Webサイト制作の実践的な学修を実現する。	
		放送・映像メディア演習C		演習形式で行う。カメラの構造や写真の仕組み、光や構図による写真ならではの表現方法や視覚効果を理解する。写真表現を介して、他の視覚メディアとの違いや、クリエイティブとの関係の理解を深め、さらに重要な作家の作品や制作方法を学び、その仕事の独自性と創作力を知る。その上で、様々な撮影方法を学び・実践し、より豊かな自己表現を実現する。他者との共同制作を通して、多様な考えや視点、様々な物事の有り様を理解する。また互いの作品を見て評価し合うことで、作品への理解が深まり、自己の問題点を再確認する。	
		放送・映像メディア演習D		演習形式で行う。照明機器や機材の進歩により変化した生活における「ひかり」、また多くの人が携帯し照明演出を身近に利用するようになった日常に着目し、それらの「ひかり」を見つめ直すための照明に関する基礎知識を身につけ、技術習得を行い、履修者それぞれが求める照明表現、演出能力を実現する。また、「ひかり」を表現メディアのひとつとして捉え、他メディアの「ひかり」のあり方を考察する。新たな表現手段との一部として模索する試みを行う。課題制作を行う事で他者の視点を学び、自らを客観的に捉え、演出基礎から応用までを目的とする。	
		放送・映像メディア演習E		演習形式で行う。映像作品における音声、音響に関わる機材の種類と使用方法についての講義を行う。またロケーションでの音声収録を実践する。DAW（Digital Audio Workstation）のソフトウェアとしてProToolsを用い、録音した音声を取り込み、編集するための方法を学ぶ。履修者が録音、編集した音声を用いた作品の制作を行い、発表と講評を行うことで、他者の視点を学び、自らを客観的に捉えることができるようになる。	
		放送・映像メディア演習F		演習形式で行う。「表現基礎ゼミナールⅠ」の再履修クラスのために開講する（放送・映像メディアコース生対象）。セルフマーケティングの理論をベースに、これまでの成長過程を振り返りながら、自尊感情（自己肯定感と自己有用感）について考え、社会との接点を模索する。受講者のイメージ構築、ブランディングに必要な基礎的なスキルの習得と、多メディア時代に社会人として求められるリテラシー、臨場感を醸成し、その向上を目指す。「表現基礎ゼミナールⅠ（放送・映像メディア演習Ｆ）」においてはその重要性を理解するため、学習の最終形（将来像）を示し、自らの未来像を描く。 放送・映像メディアコースでは、4年間の導入としてコースの学修をよりよく知るために、映像を通じて思考する力や、作品や社会に対する批判的な視点を養うための講義や実習を行う。	
		放送・映像メディア演習G		演習形式で行う。「表現基礎ゼミナールⅡ」の再履修クラスのために開講する（放送・映像メディアコース生対象）。セルフマーケティングの理論をベースに、これまでの成長過程を振り返りながら、自尊感情（自己肯定感と自己有用感）について考え、社会との接点を模索する。受講者のイメージ構築、ブランディングに必要な、基礎的なスキルの習得と、多メディア時代に社会人として求められるリテラシー、臨場感を醸成し、その向上を目指す。「表現基礎ゼミナールⅡ（放送・映像メディア演習Ｇ）」においてはワークに取り組み、「表現基礎ゼミナールⅠ」の学修を深化させる。 放送・映像メディアコースでは、「表現基礎ゼミナールⅠ」の内容をふまえ、映像を通じて思考する力や、作品や社会に対する批判的な視点をさらに深化させるための講義や実習を行う。	
		放送・映像メディア演習H		演習形式で行う。表現基礎ゼミナールⅢの再履修クラスのために開講する（放送・映像メディアコース生対象）。セルフマーケティングの理論をベースに、これまでの成長過程を振り返りながら、自尊感情（自己肯定感と自己有用感）について考え、社会との接点を模索する。受講者のイメージ構築、ブランディングに必要な、基礎的なスキルの習得と、多メディア時代に社会人として求められるリテラシー、臨場感を醸成し、その向上を目指す。「表現基礎ゼミナールⅢ（放送・映像メディア演習Ｈ）」においてはジャーナリズム、著作権など法的手法、セルフマーケティングの理論の基礎を固める。 放送・映像メディアコースでは、「表現基礎ゼミナールⅡ」の内容をふまえつつ、学生それぞれの適性に従って2年次以降の専門的な学修へと移行するための講義や実習を行う。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
第Ⅱ類科目	演習部門	アート&エンターテインメントワーク演習A		演習形式で行う。本科目においてはジャーナリズム論、産業論、メディア論、娯楽としての放送を主軸に活字、映像、音声、ネット系メディアを広く学ぶ。基礎力を盤石にし、放送業界の将来的な変容にも柔軟に対応できる教養と応用力を身につける。教育としての業界研究・放送の主たる目的は次の3点である。 ①専門課程の基盤となる知識を習得する。 ②社会人基礎力としての基本的な教養を完成する。 ③職業選択・将来設計の糧とする。	
		アート&エンターテインメントワーク演習B		演習形式で行う。バレエ、ダンスなどの身体を使った舞台芸術を題材として、その歴史的背景と形成過程を理解し、また創作表現を言葉にする技術（批評・分析・広告）と関連知識を学ぶ。色彩に対する理解を深めるために、三原色のうちの一色を効果的に使った作品制作を行う。優れた作品をつくるために、表現における「色彩」の重要性を理解する。ゼロからモノを創り出す技術を習得する。いかなる状況下においてもクリエイティブでいることにより、自らの作品や表現を社会の中で生かす技術を身につける。	
		アート&エンターテインメントワーク演習C		演習形式で行う。落語という日本独自のコミュニケーションツールを通し、日本人とはどんな民族なのか、日本伝統文化とは何かを学び、独自のコミュニケーション技術を身に着ける。社会人として自立できるコミュニケーション能力を身に着けるため、落語と言う素材と江戸文化から生まれた言葉や遊戯を使い、それを習得する。また、言葉や文字が自己と相手にあたえる影響を研究し社会生活全般の自己能力を身につける。	
		アート&エンターテインメントワーク演習D		演習形式で行う。日常的に何気なく見ている風景からイメージを構築するトレーニングをはじめ、立ち上げたイメージをCGやアニメーションの技術を使って拡張することで、独創的な映像空間を作り出すことを主たる学びとする。表現のきっかけづくり、表現の入口から始まって、それを実際にビジュアル化する方法について、思考的な部分と技術的な部分の両面から「アート」の視点で考え、作品を制作することで発想力を鍛え、手法を体得するための基礎固めを行う。	
		アート&エンターテインメントワーク演習E		演習形式で行う。実務家教員による過去の美術館での展覧会企画やアート･プロジェクト実施における実務経験を事例として取り上げ、企画立案の社会的功罪、是非、可否等についてケースディスカッションを交えて検証し、追究する。国内外の美術館の歴史とその姿勢や考え方についての知見を深め、そこにおけるキュレーターの仕事について実践的に学ぶことで即戦力を目指す。また、ワークショップ形式の演習を通じて、各自で展覧会を企画し発表する。	
		アート&エンターテインメントワーク演習F		演習形式で行う。テレビドラマや映画、舞台作品の原作として活用される漫画の構成やストーリー展開を理解し、描き方を身につける。スキルは職業として漫画を描ける程度を目指す。セリフやキャラクターの描き方を実践を通じて体得する。また、漫画の製作を通じて、アート作品と社会課題とのつながりを見出す力を養い、自立的・自律的な生き方を志向し、地域・社会・世界における課題の当事者としての自己を再発見と自己有用感を醸成する。	
		アート&エンターテインメントワーク演習G		演習形式で行う。総合芸術である演劇を理解し、創作活動に関わるスタッフ構成を理解する。また、国内外における演劇業界の現状や現代社会における演劇の役割や必要性を学修する。さらに社会課題とつながりのある様々な表現方法を学ぶ。それらを用いて自分自身の表現手段を体感し、表現業界を自らの視点で考察するスキルを獲得することを目的とする。個人の問題意識や社会への疑問を取り上げて、現代様々な方法を知り、企画力を身につける。	
		アート&エンターテインメントワーク演習H		演習形式で行う。自らの個性を理解し、鍛錬し、最適な市場で魅力を発揮するための表現力を養う。色彩学、身体表現、言語表現、ジャーナリズム、臨床心理学等を統合して多角的な表現方法の基礎力を醸成することを目的とする。多様性に富み、グローバル化した現代社会において、画一的な個性を醸成するのではなく、変化や多様性にも臨機応変に対応可能なスキルを養うことで確たる自己肯定感を醸成、自らを生かせる市場を自ら見出せる先見性を養う。	
	共通科目	コミュニケーション技法A		講義形式で行う。番組制作を通じてコミュニケーションとメディアリテラシーを学修する。裏方の活躍、つまり番組を作るとは、コミュニケーションを基本に成立していることを学び、チームプレーの集合体が番組制作であることを体験する。それらの学びを通してコミュニケーションとは何か、に結実させる。	
		コミュニケーション技法B		講義形式で行う。コミュニケーションの中でも伝達モデルにポイントを置き、展開する。コミュニケーションはメッセージが送られ、伝達され、フィルターにかけられて、受け取られる過程である。ゆえにAIにもまた同様のコミュニケーションモデルを想定できる。よってAI分野からのアプローチを試みる。	
		コミュニケーション技法C		講義形式で行う。表現することとは、表現方法の違いを超えて捕捉するならば、発信する側と受容する側のコミュニケーション活動である。発信する側の思念や思考を、音声・身体・文章・映像・マネジメントやメディアなど、表現手段を通じて他者と共有していく表現活動だと捉られる。そのため、表現活動としてのコミュニケーションを追究・実践する。	
		コミュニケーション技法D		講義形式で行う。発信する側と受容する側のコミュニケーション活動が「表現」であることに立脚し、現在用いられている方法であるところの音声・身体・文章・映像・マネジメントなどの表現手段の中から、表現活動とコミュニケーションの相関関係を追究・実践する。	
		インターンシップA		実験・実習形式で行う。映像を活用した作品の制作、イベント、プロジェクト等の企画、立案、制作、運営、広報等を行う。実習期間は、制作の原案、進捗の報告をもとに、教員による指導を行う。学生自身が実現したいアイデアにとって最適なロケーション、使用する機材、進行方法、協議、課題の発見およびその解決といった、実践的な学びを実現するため、実習は学生の自主性を重視しつつ、指導教員によるフィードバックを適宜行い、学生自身の成果の検証にもつなげる。	
		インターンシップB		実験・実習形式で行う。映像を活用した作品の制作、イベント、プロジェクト等の企画、立案、制作、運営、広報等を行う。実習期間は、制作の原案、進捗の報告をもとに、教員による指導を行う。学生自身が実現したいアイデアにとって最適なロケーション、使用する機材、進行方法、協議、課題の発見およびその解決といった、実践的な学びを実現するため、実習は学生の自主性を重視しつつ、指導教員によるフィードバックを適宜行い、学生自身の成果の検証にもつなげる。	
		インターンシップC		実験・実習形式で行う。映像を活用したイベントの企画、立案、運営指導、広報指導、レビュー等、各プロジェクトのリーダーとして活動する。ゲストプロデューサー等と協業し、イベントを実施する。実習期間は、ジャーナルを提出し、指定された期日までに電子メールおよびプリントされた報告書を作成することでビジネス文書の基礎を理解する。まとめた報告書をもとに学内にて指導教員によるフィードバックを受け、自らの成果を検証する時間を設ける。	
		インターンシップD		実験・実習形式で行う。提示されたミッションに応じて企画、立案、運営指導、広報指導、レビュー等、各プロジェクトのリーダーとして活動する。企業の指導者の指示に従い、業務を遂行する。実習期間は、ジャーナルを提出し、指定された期日までに電子メールおよびプリントされた報告書を作成することでビジネス文書の基礎を理解する。まとめた報告書をもとに学内にて指導教員によるフィードバックを受け、自らの成果を検証する時間を設ける。	
	ＰＢＬ	メディア表現ＰＢＬⅠ		〈学科PBL〉 実験・実習形式で行う。「光とことばのフェスティバル」というイベントを通して、課題解決・協働を学修する。 導入ワークショップを通じて専門科目の学びの基礎を学修する。 〈コースPBL：放送・映像メディアコース〉 実験・実習形式で行う。放送・映像メディアコースは、コースで求められる作品制作およびその発表に向けて、情報収集、テーマの検討、映像メディアの歴史や技術についての考え方など、作品制作の基本的姿勢を学ぶ。 〈コースPBL：アート&エンターテインメントワークコース〉 実験・実習形式で行う。アート&エンターテインメントワークコースは、コースから掲出される課題に対し、解決策およびその発表に向けて、情報収集、チームビルディング、プレゼンテーション技法、アート、エンターテインメントの基本についての考え方など、学修の基本的姿勢を身につける。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
第Ⅱ類科目	ＰＢＬ	メディア表現ＰＢＬⅡ		〈学科PBL〉 実験・実習形式で行う。「創造と協働」を応用し、それぞれの目的意識と創意工夫を活かした課題を設定し、個人の活動を外部に向けて発出するWeb版セルフ・プレゼンテーションのポートフォリオを作成する。 〈コースPBL：放送・映像メディアコース〉 実験・実習形式で行う。放送・映像メディアコースにおいては、「放送・映像メディア研究Ａ」のクラスごとに分かれ、制作実習を行う。実習内容は「放送・映像メディア研究Ａ」のクラスでの学修に応じて異なり、担当教員も「放送・映像メディア研究Ａ」に準ずる。 〈コースPBL：アート＆エンターテインメントワークコース〉 実験・実習形式で行う。コースから掲出される課題に対し、解決策およびその発表に向けて、情報収集、チームビルディング、プレゼンテーション技法、アート、エンターテインメントの基本についての考え方など、学修の発展的な姿勢を身につける。	
		メディア表現ＰＢＬⅢ		〈学科PBL〉 実験・実習形式で行う。目的意識を創意工夫によって設定した課題を表現し、個人活動を外部に向けて発出するWeb版ポートフォリオを作成し、自分を情報化し、ツールとして活用するかを体得する。 〈コースPBL：放送・映像メディアコース〉 実験・実習形式で行う。放送・映像メディアコースにおいては、専門ゼミナールⅠ・Ⅱのクラスごとに分かれ、制作実習を行う。実習内容は専門ゼミナールⅠ・Ⅱのクラスでの学修に応じて異なり、担当教員も「専門ゼミナールⅠ」「専門ゼミナールⅡ」に準ずる。 〈コースPBL：アート＆エンターテインメントワークコース〉 実験・実習形式で行う。各自が設定した課題に対する演習を行う。問題発見、テーマのオリジナリティの検討からはじまり、情報収集、議論、プレゼンテーションなどを行い、問題解決へと至る道筋を実践的に体得する。	
	ワークショップ	ワークショップⅠ	○	演習形式で行う。企画、構成、準備、収録（演出・撮影技術・出演）、編集、テロップワーク、スタジオでの撮影を中心に想定した映像プランの作成等を行う。部門ごとに、アニメーション、広告コミュニケーション、Webデザイン、プロデュース演習、ドラマ制作にわかれ、企画立案、制作実践、創作等を行いながら、演習を通じて、放送、映像、メディアの基礎を身につける。 放送・映像メディアコースでは複数のクラスに分かれ、複数の教員が以下のように異なる役割を担当する。 ①アニメーションの歴史、日本の商業アニメーション制作の流れ、ビジネス構造を学ぶと共に、日本の商業アニメーションの企画立案、映像表現としてのアニメーションの表現方法など理解する。 ②スタジオ収録による番組制作の実践を通して、企画、構成、準備、収録（演出・撮影技術・出演）、編集、テロップワーク等を身につける。 ③広告コミュニケーション映像制作の基礎的なクリエイティビティーとテクニックを身につけ実践する。その中でACジャパンCM学生賞にチャレンジする。 ④ドラマ形式作品を企画・制作することに必要な基本的な知識・思考・スキルを身につける。 ⑤実践的なWebデザインを学習・習得する。Webデザインの最適なプロセスを学習していく。UI、UX等のインフォメーションアーキテクト領域、また、Web構築にまつわるディレクション、マネージメント領域にも触れる。 ⑥クリエイターとのディスカッションを通じ、写真を通じて一緒に仕事をカタチにして行く様子を伝えながら、学生自らが屋外で撮影した写真のプレゼンテーションを行い、実践的に写真への解釈を深めていく。 ⑦三次元コンピュータグラフィックス(3DCG)を用いたアニメーションを制作する為の基礎的な知識と技術を身に付ける。 アート＆エンターテインメントワークコースでは、概念や理論の理解、ケーススタディ、実践で構成する。担当教員による基礎知識の教示、産学連携を想定した企画立案を通じて学術的な知識の習得と実践力を養う。	
		ワークショップⅡ	○	演習形式で行う。企画、構成、準備、収録（演出・撮影技術・出演）、編集、テロップワーク、スタジオでの撮影を中心に想定した映像プランの作成等をより深化させる。部門ごとに、アニメーション、広告コミュニケーション、Webデザイン、プロデュース演習、ドラマ制作にわかれ、企画立案、制作実践、創作等を行いながら、演習を通じて、放送、映像、メディアの作品を完成させる。 放送・映像メディアコースでは複数のクラスに分かれ、複数の教員が以下のように異なる役割を担当する。（「ワークショップⅠ」に続く内容） ①アニメーションの歴史、日本の商業アニメーション制作の流れ、ビジネス構造を学ぶと共に、日本の商業アニメーションの企画立案、映像表現としてのアニメーションの表現方法など理解する。 ②スタジオ収録による番組制作の実践を通して、企画、構成、準備、収録（演出・撮影技術・出演）、編集、テロップワーク等を身につける。 ③広告コミュニケーション映像制作の基礎的なクリエイティビティーとテクニックを身につけ実践する。その中でACジャパンCM学生賞にチャレンジする。 ④ドラマ形式作品を企画・制作することに必要な基本的な知識・思考・スキルを身につける。 ⑤実践的なWebデザインを学習・習得する。Webデザインの最適なプロセスを学習していく。UI、UX等のインフォメーションアーキテクト領域、また、Web構築にまつわるディレクション、マネージメント領域にも触れる。 ⑥クリエイターとのディスカッションを通じ、写真を通じて一緒に仕事をカタチにして行く様子を伝えながら、学生自らが屋外で撮影した写真のプレゼンテーションを行い、実践的に写真への解釈を深めていく。 ⑦三次元コンピュータグラフィックス(3DCG)を用いたアニメーションを制作する為の基礎的な知識と技術を身に付ける。 アート＆エンターテインメントワークコースでは、概念や理論の理解、ケーススタディ、実践で構成する。担当教員による基礎知識の教示、産学連携を想定した企画立案を通じて学術的な知識の習得と実践力を養う。「ワークショップⅠ」の内容を踏襲し、基礎力をブラッシュアップする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
第Ⅱ類科目	ワークショップ	ワークショップⅢ	○	演習形式で行う。アニメーションの歴史、日本の商業アニメーション制作の流れ、ビジネス構造を学ぶと共に、日本の商業アニメーションの企画立案、映像表現としてのアニメーションの表現方法など理解する。スタジオ収録による番組制作の実践を通して、広告コミュニケーション映像制作の基礎的なクリエイティビティーとテクニックを身につけ実践する。実践的なWebデザインを学習・習得する。 Webデザインの最適なプロセスを学習していく。UI、UX等のインフォメーションアーキテクト領域、また、Web構築にまつわるディレクション、マネージメント領域にも触れる。アプリケーションソフトは主にFigma、Photoshop、Dreamweaverを中心とし、その他テキストエディターも利用する。また、各個人の今後の創作活動に有用な力を習得する。 ワークショップは概念や理論の理解、ケーススタディ、実践で構成する。第一線で活躍するプロデューサーによる企画立案の実際、担当教員による基礎知識の教示、産学連携による実践と企画立案実習を通じて学術的な知識の習得と実践力を養う。 放送・映像メディアコースでは複数のクラスに分かれ、複数の教員が以下のように異なる役割を担当する。（ワークショップⅡに続く内容） ①アニメーションの歴史、日本の商業アニメーション制作の流れ、ビジネス構造を学ぶと共に、日本の商業アニメーションの企画立案、映像表現としてのアニメーションの表現方法など理解する。 ②スタジオ収録による番組制作の実践を通して、企画、構成、準備、収録（演出・撮影技術・出演）、編集、テロップワーク等を身につける。 ③広告コミュニケーション映像制作の基礎的なクリエイティビティーとテクニックを身につけ実践する。その中でACジャパンCM学生賞にチャレンジする。 ④ドラマ形式作品を企画・制作することに必要な基本的な知識・思考・スキルを身につける。 ⑤実践的なWebデザインを学習・習得する。Webデザインの最適なプロセスを学習していく。UI、UX等のインフォメーションアーキテクト領域、また、Web構築にまつわるディレクション、マネージメント領域にも触れる。 ⑥クリエイターとのディスカッションを通じ、写真を通じて一緒に仕事をカタチにして行く様子を伝えながら、学生自らが屋外で撮影した写真のプレゼンテーションを行い、実践的に写真への解釈を深めていく。 ⑦三次元コンピュータグラフィックス(3DCG)を用いたアニメーションを制作する為の基礎的な知識と技術を身に付ける。 アート&エンターテインメントワークコースは、概念や理論の理解、ケーススタディ、実践で構成する。担当教員による基礎知識の教示、産学連携を想定した企画立案を通じて学術的な知識の習得と実践力を養う。「ワークショップⅡ」を踏襲し、企画立案の質を高める。	
	専門ゼミナール	専門ゼミナールⅠ	○	演習形式で行う。学習に対する自発性、対人関係の円滑化、忍耐力などを養い、キャリア教育の機会を含む。進路や研究内容、学生の特性によって配属する。時事問題の理解を促進し、産官学の連携を通じて社会人としての基礎力も養う。2年次までに積み上げたメディア表現の基礎力（マーケティング、広報、広告、著作権法）等を活用して、アート・エンターテインメント分野での調査研究活動を展開する。複数のクラスに配属し、社会課題、ブランディング、メディア、マーケティング、芸術理論、観光、プロモーション、CM等の専門性を追究する。「専門ゼミナールⅠ」においては基礎となる理論を学修する。 放送・映像メディアコースでは複数のクラスに分かれ、複数の教員が以下のように異なる役割を担当する。 ①Webを中心とするデジタルコミュニケーションに関わるテーマについて深く理解し、その価値を認めた上で正しく発信する能力を身につける。 ②実習形式で映像その他の多様なメディアを用いた作品を制作する。また、制作した作品の発表を通じて、他者の考えを理解・尊重する力と、自らの主張を発信していく力を身につける。 ③一般経済問題中心に関心のあるテーマを選定する。理解を深めたうえで、関係者にインタビューするなどして映像を制作する。 ④各自の関心に応じて研究活動や制作を進める。研究活動や制作の準備となる活動を行いつつ、自主活動を始めることを支援する。 ⑤商業アニメーション作品への理解を深めるため、アニメーション作品の制作過程を研究し、その構造を理解する。 ⑥監督・脚本・制作・撮影・録音など役割を分担してチームを編成し、映画（ドラマ）を制作する。 ⑦広告クリエイティブにおける映像表現の企画力を磨き、その過程の中で学生同士がお互いの課題を検証し、批評し合う分析力や高いプレゼンテーション能力を身につける。また高い実践力の獲得を狙い、課題CMの完成と実際の企業やレコード会社を対象にした企画を提案、採用を目指す。	
		専門ゼミナールⅡ	○	演習形式で行う。 放送・映像メディアコースでは複数のクラスに分かれ、複数の教員が以下のように異なる役割を担当する。（「専門ゼミナールⅠ」に続く内容） ①Webを中心とするデジタルコミュニケーションに関わるテーマについて深く理解し、その価値を認めた上で正しく発信する能力を身につける。 ②実習形式で映像その他の多様なメディアを用いた作品を制作する。また、制作した作品の発表を通じて、他者の考えを理解・尊重する力と、自らの主張を発信していく力を身につける。 ③一般経済問題中心に関心のあるテーマを選定する。理解を深めたうえで、関係者にインタビューするなどして映像を制作する。 ④各自の関心に応じて研究活動や制作を進める。研究活動や制作の準備となる活動を行いつつ、自主活動を始めることを支援する。 ⑤商業アニメーション作品への理解を深めるため、アニメーション作品の制作過程を研究し、その構造を理解する。 ⑥監督・脚本・制作・撮影・録音など役割を分担してチームを編成し、映画（ドラマ）を制作する。 ⑦広告クリエイティブにおける映像表現の企画力を磨き、その過程の中で学生同士がお互いの課題を検証し、批評し合う分析力や高いプレゼンテーション能力を身につける。また高い実践力の獲得を狙い、課題CMの完成と実際の企業やレコード会社を対象にした企画を提案、採用を目指す。 アート&エンターテインメントワークコースでは、学習に対する自発性、対人関係の円滑化、忍耐力などを養い、キャリア教育の機会を含む。進路や研究内容、学生の特性によって配属する。時事問題の理解を促進し、産官学の連携を通じて社会人としての基礎力も養う。2年次までに積み上げたメディア表現の基礎力（マーケティング、広報、広告、著作権法）等を活用して、アート・エンターテインメント分野での調査研究活動を展開する。複数のクラスに配属し、社会課題、ブランディング、メディア、マーケティング、芸術理論、観光、プロモーション、CM等の専門性を追究する。「専門ゼミナールⅡ」においては深めた理論をもとに研究計画を立案し、調査研究を実行する。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
第Ⅱ類科目	専門ゼミナール	専門ゼミナールⅢ	○	演習形式で行う。 放送・映像メディアコースでは複数のクラスに分かれ、複数の教員が以下のように異なる役割を担当する。（「専門ゼミナールⅡ」に続く内容） ①Webを中心とするデジタルコミュニケーションに関わるテーマについて深く理解し、その価値を認めた上で正しく発信する能力を身につける。 ②実習形式で映像その他の多様なメディアを用いた作品を制作する。また、制作した作品の発表を通じて、他者の考えを理解・尊重する力と、自らの主張を発信していく力を身につける。 ③一般経済問題中心に関心のあるテーマを選定する。理解を深めたうえで、関係者にインタビューするなどして映像を制作する。 ④各自の関心に応じて研究活動や制作を進める。研究活動や制作の準備となる活動を行いつつ、自主活動を始めることを支援する。 ⑤商業アニメーション作品への理解を深めるため、アニメーション作品の制作過程を研究し、その構造を理解する。 ⑥監督・脚本・制作・撮影・録音など役割を分担してチームを編成し、映画（ドラマ）を制作する。 ⑦広告クリエイティブにおける映像表現の企画力を磨き、その過程の中で学生同士がお互いの課題を検証し、批評し合う分析力や高いプレゼンテーション能力を身につける。また高い実践力の獲得を狙い、課題CMの完成と実際の企業やレコード会社を対象にした企画を提案、採用を目指す。 アート&エンターテインメントワークコースでは、学習に対する自発性、対人関係の円滑化、忍耐力などを養い、キャリア教育の機会を含む。進路や研究内容、学生の特性によって配属する。時事問題の理解を促進し、産官学の連携を通じて社会人としての基礎力も養う。2年次までに積み上げたメディア表現の基礎力（マーケティング、広報、広告、著作権法）等を活用して、アート・エンターテインメント分野での調査研究活動を展開する。複数のクラスに配属し、社会課題、ブランディング、メディア、マーケティング、芸術理論、観光、プロモーション、CM等の専門性を追究する。「専門ゼミナールⅢ」においては計画に基づいて調査研究をまとめる。	
		専門ゼミナールⅣ	○	演習形式で行う。 放送・映像メディアコースでは複数のクラスに分かれ、複数の教員が以下のように異なる役割を担当する。（「専門ゼミナールⅢ」に続く内容） ①Webを中心とするデジタルコミュニケーションに関わるテーマについて深く理解し、その価値を認めた上で正しく発信する能力を身につける。そして最終的には卒業制作作品動画の完成を目指していく。 ②実習形式で映像その他の多様なメディアを用いた作品を制作する。また、制作した作品の発表を通じて、他者の考えを理解・尊重する力と、自らの主張を発信していく力を身につける。そして最終的には卒業制作作品動画の完成を目指していく。 ③一般経済問題中心に関心のあるテーマを選定する。理解を深めたうえで、関係者にインタビューするなどして映像を制作する。そして最終的には卒業制作作品動画の完成を目指していく。 ④各自の関心に応じて研究活動や制作を進める。研究活動や制作の準備となる活動を行いつつ、自主活動を始めることを支援する。そして最終的には卒業制作作品動画の完成を目指していく。 ⑤商業アニメーション作品への理解を深めるため、アニメーション作品の制作過程を研究し、その構造を理解する。そして最終的には卒業制作作品動画の完成を目指していく。 ⑥監督・脚本・制作・撮影・録音など役割を分担してチームを編成し、映画（ドラマ）を制作する。そして最終的には卒業制作作品動画の完成を目指していく。 ⑦広告クリエイティブにおける映像表現の企画力を磨き、その過程の中で学生同士がお互いの課題を検証し、批評し合う分析力や高いプレゼンテーション能力を身につける。また高い実践力の獲得を狙い、課題CMの完成と実際の企業やレコード会社を対象にした企画を提案、採用を目指す。そして最終的には卒業制作作品動画の完成を目指していく。 アート&エンターテインメントワークコースでは、学習に対する自発性、対人関係の円滑化、忍耐力などを養い、キャリア教育の機会を含む。進路や研究内容、学生の特性によって配属する。時事問題の理解を促進し、産官学の連携を通じて社会人としての基礎力も養う。2年次までに積み上げたメディア表現の基礎力（マーケティング、広報、広告、著作権法）等を活用して、アート・エンターテインメント分野での調査研究活動を展開する。複数のクラスに配属し、社会課題、ブランディング、メディア、マーケティング、芸術理論、観光、プロモーション、CM等の専門性を追究する。「専門ゼミナールⅣ」においては、自らの調査研究の結果をクリティカルシンキングによって再検討する。	
		専門ゼミナールⅤ	○	演習形式で行う。 放送・映像メディアコースでは複数のクラスに分かれ、複数の教員が以下のように異なる役割を担当する。（「専門ゼミナールⅣ」に続く内容） ①Webを中心とするデジタルコミュニケーションに関わるテーマについて深く理解し、その価値を認めた上で正しく発信する能力を身につける。そして最終的には卒業制作作品動画の完成を目指していく。 ②実習形式で映像その他の多様なメディアを用いた作品を制作する。また、制作した作品の発表を通じて、他者の考えを理解・尊重する力と、自らの主張を発信していく力を身につける。そして最終的には卒業制作作品動画の完成を目指していく。 ③一般経済問題中心に関心のあるテーマを選定する。理解を深めたうえで、関係者にインタビューするなどして映像を制作する。そして最終的には卒業制作作品動画の完成を目指していく。 ④各自の関心に応じて研究活動や制作を進める。研究活動や制作の準備となる活動を行いつつ、自主活動を始めることを支援する。そして最終的には卒業制作の作品動画完成を目指していく。 ⑤商業アニメーション作品への理解を深めるため、アニメーション作品の制作過程を研究し、その構造を理解する。そして最終的には卒業制作作品動画の完成を目指していく。 ⑥監督・脚本・制作・撮影・録音など役割を分担してチームを編成し、映画（ドラマ）を制作する。そして最終的には卒業制作作品動画の完成を目指していく。 ⑦広告クリエイティブにおける映像表現の企画力を磨き、その過程の中で学生同士がお互いの課題を検証し、批評し合う分析力や高いプレゼンテーション能力を身につける。また高い実践力の獲得を狙い、課題CMの完成と実際の企業やレコード会社を対象にした企画を提案、採用を目指す。そして最終的には卒業制作作品動画の完成を目指していく。 アート&エンターテインメントワークコースでは、学習に対する自発性、対人関係の円滑化、忍耐力などを養い、キャリア教育の機会を含む。進路や研究内容、学生の特性によって配属する。時事問題の理解を促進し、産官学の連携を通じて社会人としての基礎力も養う。2年次までに積み上げたメディア表現の基礎力（マーケティング、広報、広告、著作権法）等を活用して、アート・エンターテインメント分野での調査研究活動を展開する。複数のクラスに配属し、社会課題、ブランディング、メディア、マーケティング、芸術理論、観光、プロモーション、CM等の専門性を追究する。「専門ゼミナールⅤ」においては研究成果を集約し、社会実装や研究成果として報告する作業をする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
第Ⅱ類科目	専門ゼミナール	専門ゼミナールⅥ	○	演習形式で行う。 放送・映像メディアコースでは複数のクラスに分かれ、複数の教員が以下のように異なる役割を担当する。（「専門ゼミナールⅤ」に続く内容） ①Webを中心とするデジタルコミュニケーションに関わるテーマについて深く理解し、その価値を認めた上で正しく発信する能力を身につける。そして最終的には卒業制作作品動画の完成を目指していく。 ②実習形式で映像その他の多様なメディアを用いた作品を制作する。また、制作した作品の発表を通じて、他者の考えを理解・尊重する力と、自らの主張を発信していく力を身につける。そして最終的には卒業制作作品動画の完成を目指していく。 ③一般経済問題中心に関心のあるテーマを選定する。理解を深めたうえで、関係者にインタビューするなどして映像を制作する。そして最終的には卒業制作作品動画の完成を目指していく。 ④各自の関心に応じて研究活動や制作を進める。研究活動や制作の準備となる活動を行いつつ、自主活動を始めることを支援する。そして最終的には卒業制作の作品動画完成を目指していく。 ⑤商業アニメーション作品への理解を深めるため、アニメーション作品の制作過程を研究し、その構造を理解する。そして最終的には卒業制作作品動画の完成を目指していく。 ⑥監督・脚本・制作・撮影・録音など役割を分担してチームを編成し、映画（ドラマ）を制作する。そして最終的には卒業制作作品動画の完成を目指していく。 ⑦広告クリエイティブにおける映像表現の企画力を磨き、その過程の中で学生同士がお互いの課題を検証し、批評し合う分析力や高いプレゼンテーション能力を身につける。また高い実践力の獲得を狙い、課題CMの完成と実際の企業やレコード会社を対象にした企画を提案、採用を目指す。そして最終的には卒業制作作品動画の完成を目指していく。 アート&エンターテインメントワークコースでは、学習に対する自発性、対人関係の円滑化、忍耐力などを養い、キャリア教育の機会を含む。進路や研究内容、学生の特性によって配属する。時事問題の理解を促進し、産官学の連携を通じて社会人としての基礎力も養う。2年次までに積み上げたメディア表現の基礎力（マーケティング、広報、広告、著作権法）等を活用して、アート・エンターテインメント分野での調査研究活動を展開する。複数のクラスに配属し、社会課題、ブランディング、メディア、マーケティング、芸術理論、観光、プロモーション、CM等の専門性を追究する。「専門ゼミナールⅥ」においては研究成果、社会実装等、2年間の活動を集約する。	
		卒業論文	○	演習形式で行う。本学部4年間の集大成として、卒業論文を執筆する。卒業論文は、文献研究、実験や調査などの実証的なデータ分析に基づく報告・考察などに基づき執筆する。学生は担当教員の指導の下、執筆し、その過程において、中間発表会、最終審査会及び優秀者発表会を設定する。学年の中で優れた卒業研究は、学部全体で選考され、評価される。論文においては、目的、展開、調査方法、分析・考察、結論、書式等の審査基準を満たしていることが必須である。	
		卒業制作	○	演習形式で行う。本学科4年間の集大成として、卒業論文執筆または卒業制作を行う。卒業論文は、文献研究、実験や調査などの実証的なデータ分析に基づく報告・考察などから結論を導き出し執筆する。卒業制作は、専門ゼミナールでの学修をふまえた種々の表現メディアを用いて作品を制作する。学生は担当教員の指導のもと、執筆または制作を行う。その過程において、中間発表会、最終審査会を設定する。最終審査会を経て合格した作品は、学内展覧会での発表機会を得る。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
第Ⅲ類科目	アントレプレナーシップ育成教育プログラム	超スマート社会論		オンデマンドによる講義形式で行う。未来の社会は仮想空間と現実空間が高度に融合し、人々が活き活きと活動し、快適に暮らす社会が実現すると言われている。人とロボット・AIとの共生、多様なニーズに合わせたサービスの提供とサービス格差の解消、新しいコミュニティの創造など新たな価値が生み出される。しかし、一方で様々な問題も起きてきている。超スマート社会を実現する様々な技術や社会の動向を学び、私たちの生活がどのように変わるのか、そのような社会で私たちはどう活躍し、貢献できるのかを考える。	メディア
		新共生社会論		オンデマンドによる講義形式で行う。他者とのつながり、地域との交わり、モノとの関係性、あるいは先人たちとの関係性をもって、「私」が存在している。この世界が「関係性」で成立している以上、私たちも無関係ではいられない。様々な現場に関わる人々の活動をふまえ、彼らの原動力がどこから生まれてくるのかを知り、また、私たちがどのように主体的に関わっていけるのか、などについて「自分ごと」として学ぶ。講義を通して、「これからの自分はどうあるべきか」「新しい価値をどう生み出していけるのか」などの意識を高め、次代のアントレプレナーとしての原動力を育むことを目的とする。	メディア
		地域人イズム論		オンデマンドによる講義形式で行う。地域を支え、多様な立場で地域を創造する全国の「地域人」の生き方・働き方を取り上げ、これから自分自身がどのような「地域人」像を描きながら、生きていきたいかを探究する。 全国の「地域人」の生き方・働き方、価値観、ライフストーリーに触れ、地域で生きることの面白さ、魅力に出会い、自分自身が目指したい将来の「地域人」像を描き、「地域人」とは何か、自分自身がなりたい「地域人」とはどのような姿か、他者に伝えられるように言葉にする。	メディア
		アントレプレナーシップ論		オンデマンドによる講義形式で行う。停滞する日本社会では新しい価値を創出するイノベーションが求められている。起業家をはじめ実社会で活躍する企業人の事例に多く触れて、講義を通じての質疑や意見交換の中から、経済社会で活動するにあたり必要とされる基本的な基礎知識を理解し、実際に生かせるようにする。加えて起業への興味・関心を持ち、実際のビジネスプラン策定に必要な心構えや専門知識及び準備の手順を理解し、新たな価値を提供し社会に貢献するために必要なアントレプレナーシップを身につける。	メディア
		ロジカルシンキング		講義形式で行う。ロジカルに考える思考力とビジネスで活用できる各種フレームワークを組み合わせた課題解決の手法を学ぶ。 直感や感覚的に物事を捉えるのではなく、筋道を立てて矛盾・破綻がないように論理的に考え、結論を出すロジカルな思考法はビジネスにおいて重要なスキルである。複雑な情報や自分の意図を、相手に的確にかつすばやく伝えわるための必要な考え方を個人、グループワークを通じて学び、より実践的に学び合う。	
		データ分析技法		講義形式で行う。大量のデータが得られるようになった現代では、データをもとにした意思決定やアクションを行う必要性が業界問わず増している。「課題設定→分析設計→データ整備→データ分析→結果解釈/施策検討」というデータによる意思決定の進め方についての一連の流れを学ぶ。 店舗の実データを用いて、「どのような課題を解決すべきか（課題設定）」「どのような分析を行うか（分析設計）」「分析結果からどのようなアクションにつなげるか」を多数の演習やグループワークを交えて実践的に学び、データドリブンな意思決定を進めるための礎を体得する。	
		プログラミングの基礎		講義形式で行う。コンピュータの特徴を踏まえ、プログラミング的な思考を習得することを目的とし、プログラミングの基本的な構文を学習する。 プログラミングツール「Scratch」を使用し、様々な指令を与えて具体的な反応を見ることを通じてプログラミング的な思考を学ぶ。さらに、ヒアリング要件をもとにプログラムを設計し、ロボットに実装し運用までを試み、実践的にプログラミングとアルゴリズムを修得する。	
		ファイナンスの基礎		講義形式で行う。社会においては、あらゆる事業体が社会の変化に対応してイノベーションを起こし、持続可能なものにしていくことが求められており、それゆえファイナンスの知識を具現していることが不可欠である。 経済活動のしくみとその内容、意味、歴史的背景や問題点を考察しながら、産業の育成や起業の在り方を検討し、国際社会の動向とその影響、市場メカニズムの意義と限界を理解するとともに、国内においては人口減少及び資金調達方法の多様化にともない激変する金融システムも理解しながら、的確なファイナンス手法とは何かを学ぶ。	
		財務会計の基礎		講義形式で行う。「財務諸表」と「経営」を結び付けて考えることが出来る人材へのニーズは非常に高まっている。また、将来経営者として、自身の経営する会社の持続可能性を高めるうえでも大変重要なポイントになる。企業活動の結果である「財務諸表」の数字から、どの様な企業活動を進めていたのか、「財務諸表」を身近にしていく事を目的にする。 様々な企業の「損益計算書」や「貸借対照表」の数字について、様々な視点から考察しながら、グループ討議等により他者の視点を共有し、視野を広げて想像し分析する力を身につける。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
第Ⅲ類科目	アントレプレナーシップ育成教育プログラム	マーケティングの基礎		講義形式で行う。マーケティングの基本用語や機能についての理解をもとにして、デジタルマーケティングをはじめとする近年のマーケティング実践を、実例を踏まえて学ぶ。デジタルマーケティングにおいても、顧客理解を起点としてものごとを考えること・マーケティング思考の重要性は変わらない。実社会の企業や組織の発展やヒット商品の誕生などの要因分析や、商品開発、起業などの場面で、自ら活用・実践できるようになることを目的とする。	
		言語表現技術Ⅰ		講義形式で行う。コミュニケーションに必要な「ことば」を改めて取り上げ、ことばの力を知り、自分らしい「伝わる表現力」を習得する。 具体的な事例や自分の周りの出来事から何を感じ、何が問題なのか、どう解決できるかを考え、日頃の問題意識から社会を見る目を養う。それらの視点を意識したうえで、コミュニケーションの表裏である「きく」を実践する。実際にインタビューを行うことで、何をきくのかの大切さ、事実をきく重要性を学ぶ。また、いろいろな意見から真実にたどり着くには何が必要か実践と討議により考える。	
		言語表現技術Ⅱ		講義形式で行う。事実を見る目、思考力を養い自己発信力、きく力を身に付けコミュニケーション力を向上させ、人的ネットワークを拡げるためのスキルを身につける。 相手に伝わる表現力、相手を理解するインタビュー力を身に付けるには何が必要かを、身近な社会現象、自分の生活体験を通して考え、演習を重ね、「話す」、「きく」力＝表現力を磨いて円滑なコミュニケーション力を身に付け、ひいては人的ネットワークの構築力を高める。	
		情報表現技術Ⅰ		講義形式で行う。地域や企業の情報発信における課題を解決するために、文章や画像、動画といったデジタルコンテンツの企画・制作に関する技術を学ぶ。 誰もがデジタルメディアを通じた情報発信にかかわるようになった現場の課題に応えるスキルを実践的に学ぶ。 ワークショップとグループワーク、発表、講評の繰り返しを通じて、文章や画像、動画といったデジタルコンテンツの企画・制作に関するスキルを身につける。	
		情報表現技術Ⅱ		講義形式で行う。運営者になったつもりでコンテンツを企画・制作したりといった活動を、ワークショップ形式で実施する。 情報表現技術Ⅰで身につけたスキルを活用し、デジタルコンテンツの流通する主たるメディアであるソーシャルメディアの性質やファンコミュニティの特徴について学び、実践的なリサーチをおこない、活用するスキルを身につける。	
		キャリア探究A		講義形式で行う。大手企業から中堅企業まで様々な経営者または経営管理者層から、企業経営の実際について体験に基づいた話（企業の役割、業種の多様性、業界の動向、経営理念、経営戦略、経営者の役割とマネジメント）を中心に、今後求められる人材像をテーマにグループワークを行い、働くことの意義や仕事（職業）の選択の考え方について議論し、将来のキャリアを探究する。	
		キャリア探究B		講義形式で行う。中小企業の経営者が企業経営の実体験に基づいて語る中小企業の役割、業種の多様性、経営理念、経営者の役割とマネジメントなどを題材にグループワークを行い、働くことの意義や仕事（職業）の選択の考え方について議論し、将来のキャリアを探究する。	
		キャリアデザインA		講義形式で行う。将来のキャリアビジョンを描き、実現するためのはじめの一歩である。自己理解を深め、自分らしいキャリア構築を実現するために具体的なアクションプランを策定すると同時に、目標達成にむけて必要なスキルを毎回の実践的トレーニングを通し高め、最終的には社会で求められる資質・能力を培う。	
		キャリアデザインB		講義形式で行う。人生100年時代と言われる中、自ら課題を見つけ、解消していく力が求められている。その課題を解決するために「自分とは」「社会とは」を考え、今後の人生を生き抜く「自分軸」を確立することを目的とする。また、社会で良質な陣限関係を構築するために、他者と協働するためのリーダーシップ・対人コミュニケーション力をケーススタディを含む実践的なワークの中で身につける。	
		コミュニケーション		講義形式で行う。多様な価値観が様々な方法で飛び交う時代に、コミュニケーションスキルは最も重要なスキルの一つである。1対1、複数対複数、ワークショップ形式、ビジネスシーン等のシチュエーションに基づいた重要要素、スキルの理解とグループワークでの実践を通じて、今後のビジネスや社会生活において有用な知識の習得する。 様々なシチュエーションを想定し、社会に出てからも“使いこなせる”オンライン・オフラインを問わない万能なコミュニケーションスキルを基礎と実践で学ぶ。	
		リーダーシップ		講義形式で行う。新たな価値を生み出すための変革を実現するために、自らが主体となって様々な人たちを巻き込み、動機づけ、社会課題に挑戦するリーダーシップのあり方やスキルについて学ぶ。 加えてモチベーション理論や関連した行動科学の理論を学び、身近な組織や自分が所属する集団の状況をこれらの理論に当てはめて分析することで、リーダーシップの有効性と集団の状況との関係を考える。 様々なリーダーシップ理論を援用して、自分自身の行動スタイルやリーダーシップを発揮できるようになることを目的とする。	
		ファシリテーション		講義形式で行う。現実社会で難しい状況にもひるまず臨むファシリテーション力を身につけ、多様な価値観・背景をもつ参加者が、目的実現に向けて、限られた時間の中で合意形成し、解決策を考案することを目的とする。 「お互いを知り合う」ことから始め、現状の問題意識、将来への思い、テーマ設定、合意形成、解決策決定など、段階に応じた話し合いを実践する。これらのグループワークを通して、必要最小限のファシリテーション知識を確認したうえで実践練習し、振り返り、様々な手法を身につける。	
		プレゼンテーション		講義形式で行う。プレゼンテーションの概念、作成方法および発表手法を学び実践することで、相手に伝わるアウトプット（言語化・表現手法）スキルの習得を目的とする。 プレゼンテーション＝単なる発表・報告ではなく、ビジネスシーンにおいて必要とされるプレゼンテーション（相手を動かす、目標を達成する）について理解し、構成の作り方・デザインスキルを身につける。また、ターゲット・目的・シチュエーションに合わせてプレゼンテーションの構成を自分の力で組み立て、伝えたいことを論理的にまとめ、言語化する力を培う。	
		マネジメント		講義形式で行う。企業やNPOといった組織が期待に応える成果をあげていくためになされる活動の背景にあるマネジメントの基礎を学び、実践するための継続学習の起点を作る。 マネジメントとは何か、その目的、役割は何かどのようなことをすればよいのかを事例や演習を通じて全体像を習得する。事業を立ち上げる土台となるマーケティングとイノベーションの位置づけと関係、アントレプレナーシップに基づく戦略の習得にもウエイトを置き、バランスの取れたマネジメントを学ぶ。	
		ビジネス英語		演習形式で行う。世界のビジネスシーンでいま何が起きているのか、また国際社会での日本の立ち位置について理解し、学生自らがそれらのテーマについて主体的に思考する機会を設ける。 授業はAll English、すなわち英語で行われる為、学生の基礎英語力をビジネスに必要な英語コミュニケーション力へとブラッシュアップすることを目的とする。具体的には、英語でビジネスについてのインプットを行い、身に付けたビジネス英単語や表現方法を活用しながら英語でのアウトプットにも挑戦する。	
		ビジネス中国語		演習形式で行う。グローバルビジネス現場で使われる中国語コミュニケーションの理論、基礎知識、実践能力を学ぶ。 中国ビジネスをみていくうえで必要なビジネスコミュニケーションの基礎を学び、具体的な中国語ビジネスコミュニケーションスキルを場面別に学習する。さらに、基礎と応用能力を融合させ、実践的なビジネスコミュニケーション能力を身につける。	
		マイスターワークショップ		新しいビジネスの開拓、既存の仕事や事業の改革、人やコミュニティづくりなど新しいことに一歩を踏み出し、社会に貢献できる能力を「知識」と「実践」の融合により修得する。 様々な分野で活躍する方々との対話を通して、地域を題材とした学びと活動を一体化した実践的な学びを行い、新しいことにチャレンジするアントレプレナーシップの修得し、地域戦略人材となることを目的とする。	
		マイスターフィールドワーク		サテライトキャンパス（南三陸、京都、藤枝、淡路、阿南）や付置研究所の地域構想研究所の地域支局を活用してフィールドワークを実施し、現地の自治体、NPO、企業、教育機関などと協働し、地域の課題可決に取り組む。 地域に関するデータの収集・整理・分析を通じて、地域の課題を発見し、改善・解決するための方向性を構想しながら活動計画を立て、実行するための手法を身につける。これまでの「知識」を「実践」の場で活用できることを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
第Ⅲ類科目	アントレプレナーシップ育成教育プログラム	マイスターインターンシップ		インターンシップは、国内における様々な組織で実施されている仕事を体験し、労働の意義・倫理等を自ら気づき、職業への意識や理解を高め、社会人としての必要な技能を培うと共にキャリアを考えることを目的とする。 企業実習にあたっては事前に必要な業界研究・企業研究を実施する。実習では日々の気づき、体験を通じて得られた知見、その課題などについて毎日リフレクションを行い、実習レポートを取りまとめる。それらの経験を発表、グループで共有し、将来のキャリアに繋げていく。	
		短期留学		グローバル化の進む世界にあって、国内外を問わず、異文化理解、外国語習得、国際的活動に必要なコミュニケーション能力が強く求められている。 海外での短期研修を通じて、異文化・多文化環境への適応力の養成と、外国語による実践的なコミュニケーション力の向上を図り、多文化社会において実力を発揮できる自信を体得することを目的とする。	
		海外インターンシップ		海外での就業体験を通じて、国際的なビジネスにおける職業への意識や理解を高め、リーダーシップやチームワークを実践的に学び、グローバルな知見を広げる。また、複数業種の海外企業を視察して様々な働き方を知り、自分のキャリアを考える。	

学校法人大正大学　設置認可等に関わる組織の移行表

令和4年度		入学定員	編入学定員	収容定員		令和6年度		入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
大正大学						**大正大学**					
仏教学部	仏教学科	100	3年次 33	466	→	仏教学部	仏教学科	100	3年次 33	466	
社会共生学部	公共政策学科	130	－	520				0	－	0	令和6年度4月学生募集停止
	社会福祉学科	65	3年次 2	264				0	－	0	令和6年度4月学生募集停止
心理社会学部	人間科学科	120	3年次 2	484				0	－	0	令和6年度4月学生募集停止
	臨床心理学科	110	3年次 2	444				0	－	0	令和6年度4月学生募集停止
						人間学部	人間科学科	120	3年次 2	484	学部の設置（届出）
							社会福祉学科	65	3年次 2	264	学部の設置（届出）
						臨床心理学部	臨床心理学科	110	3年次 2	444	学部の設置（届出）
文学部	人文学科	65	3年次 2	264		文学部	人文学科	65	3年次 2	264	
	日本文学科	70	3年次 2	284			日本文学科	70	3年次 2	284	
	歴史学科	160	3年次 2	644			歴史学科	160	3年次 2	644	
表現学部	表現文化学科	205	－	820		表現学部	表現文化学科	80	－	320	収容定員変更（△500）
							メディア表現学科	155	－	620	学科の設置（届出）
地域創生学部	地域創生学科	100	－	400	→	地域創生学部	地域創生学科	100	－	400	
							公共政策学科	100	－	400	学科の設置（届出）
計		1125	45	4590		計		1125	45	4590	
大正大学大学院						**大正大学大学院**					
仏教学研究科	仏教学専攻（M）	30	－	60		仏教学研究科	仏教学専攻（M）	30	－	60	
	仏教学専攻（D）	7	－	21			仏教学専攻（D）	7	－	21	
人間学研究科	社会福祉学専攻（M）	5	－	10		人間学研究科	社会福祉学専攻（M）	5	－	10	
	臨床心理学専攻（M）	18	－	36			臨床心理学専攻（M）	18	－	36	
	人間科学専攻（M）	3	－	6			人間科学専攻（M）	3	－	6	
	福祉・臨床心理学専攻（D）	3	－	9			福祉・臨床心理学専攻（D）	3	－	9	
文学研究科	宗教学専攻（M）	5	－	10		文学研究科	宗教学専攻（M）	5	－	10	
	宗教学専攻（D）	2	－	6			宗教学専攻（D）	2	－	6	
	史学専攻（M）	10	－	20			史学専攻（M）	10	－	20	
	史学専攻（D）	2	－	6			史学専攻（D）	2	－	6	
	国文学専攻（M）	3	－	6			国文学専攻（M）	3	－	6	
	国文学専攻（D）	2	－	6			国文学専攻（D）	2	－	6	
	計	90	－	196			計	90	－	196	